

静中・静高 関東同窓会 会報

静中・静高関東同窓会
 会報 第20号
 昭和60年12月4日発行
 編集人 月見里得知郎

60年度総会盛大に開かる

岳南健児の意気さかん！
 60年度総会に三百余集合

関東同窓会第11回60年度総会は
 6月18日（火）の午後6時30分よ
 り、「築地スエヒロ」の大宴会場
 で開かれた。

例年通り郷土色を盛りこんだ総
 会・懇親会に、雨中統々と集まる
 同窓生三百余名、会場内に校歌・
 応援歌のメロディが流れ、正に盛
 会、壮観である。

月見里得知郎幹事長（53期）の
 司会、校歌斉唱で幕を開けた。

所用のため欠席の宮沢次郎会長
 （27期）に代って、奥野孝副会長
 （53期）が、満10年を闊した関東
 同窓会は、毎年、総会や年5回の
 幹事会、会報の年2回発行、ゴル
 フ・ハイキング・釣りの懇親会な
 どを行なって親睦の輪を広げてき

たが、更に英知をあつめて新しい
 企画により発展を図りたいので、
 どうかよろしくと力強く述べられ
 た。

来賓は鈴木与平同窓会長（44期）
 土屋詮二大井川地区支部長（45期）
 鈴木清見校長、杉山茂樹事務局長
 （60期）、北川卷平先生（48期）

鈴木殿夫先生（53期）の六氏。
 久しぶりに来会された鈴木会長
 は「百周年から六年、母校と同窓
 会の力強い前進のためにも努力
 したい」と感銘深い挨拶をされた。

鈴木校長は新校舎建設をはじめ今
 春の進学状況、スポーツ関係とく
 にサッカー・バスケット・野球各
 部の最近の大活躍の報告のあと、
 東京志向の多い卒業生のため関東
 同窓会諸先輩の一層の協力を懇請
 された。また北川先生は昭和17年

から22年間の教師時代を回想され
 ながら、熱のこもったお話をされ
 た。

ついで総会議事に移り、

(1) 59年度事業報告と会計報告が奥
 沢副会長（59期）から、監査報告
 が村井東助監事（44期）から行な
 われて承認採決された。

(2) 60年度の行事計画案と予算案、
 年会費変更の提案説明がなされて
 可決された。

懇親会は最年長の石割正氏（38
 期）の力強い音頭による乾杯では
 じまった。グラス片手に故郷の味
 に舌つづみを打つ同期の輪、そし
 て先輩後輩の交歓が会場いっぱい
 にくりひろげられていく。

中央壇上で新入会員、つまり今
 春卒業の101期生の紹介が行われ、
 早速応援団長の手さばきも鮮やか
 に「希望の歌」などが高らかに歌
 われた。この日、会報19号とも
 に配布された会員名簿は、この101
 期48名を含め約三千四百名を掲載



した80ページの最新版である。

なつかしい静岡の名産品をならべた土産品コーナーも売行き良く店じまいのようだ。ふるさととい

えば会報19号は、各期日より、芹沢正憲氏(43期)の随想、静岡だより、親睦会記録やお便りの欄「こ

え」などが載っているが、「ふるさと」欄は読み逃さない。野間省一講談社名誉会長の「富士の見え

る町」と、そして週刊サンケイに「あこがれの母校」と題して書かれた作家阿部牧郎氏の一文が転載されている。

総会の掉尾を飾って校歌の大合唱、野崎操一氏(40期)の発声による万歳三唱で解散したのは午後8時半近かった。

(60期 上杉重吉)

その後の同窓会活動

(S 60・61 60・11)

◆幹事会

・60年7月25日(木)

・新宿ビルホール

・出席40名

・60年度総会の報告

・会報・名簿の発送依頼 ほか

◆第18回叩高ゴルフ大会

・60年8月16日(金)

・東名カントリークラブ

・22名参加

・優勝雨宮明生(68) 準優勝片山

守彦(71) 三位滝川博(67)

◆幹事会

・60年10月17日(木)

・トップバンムーア会議室にて

・出席 24名

・会報20号の原稿依頼

・柳川太郎副会長逝去の報告

・秋のリクリエーション ほか

10月17日の幹事会では、「同窓会とは何か」が論議され、いろいろ意見が出された。80期の諸星氏も具体的な例を出されて同窓会問題を紙面でも論じておられる。

44期の臼井氏は編集部に次の一文を寄せられ、特集を企画しては如何との提言があったが、紙面の都合と編集部の対応が決まらぬままに次回に持ちこされることになった。

『同窓会に何を望むか』
 静中・静高同窓会は創立して十年を経過、皆様の絶大な協力によりその運営も軌道にのりましたが、行事などがマンネリ化しているとの声があがってきました。そこで同窓会はいかにあるべきか、その運営行事などについて皆様から忌憚のないご意見をいただきまして、今後の参考の資としたいと存じます。

昭和59年度 静中・静高関東同窓会決算書

(S 59.4.1~S 60.3.31)

I 取 入		
58年度繰越金	390,724円	
58年度会費(48名)	96,000円	
59年度会費(908名)	1,729,000円	
60年度会費(5名)	10,000円	
広告料	210,000円	
寄付金	50,000円	
預金利息	4,622円	
計	2,490,346円	

II 支 出		
会報	451,500円	
名簿	95,000円	
郵送費	715,610円	
印刷費	134,380円	
人件費(アルバイト料)	100,000円	
消耗品費	83,000円	
事務用品費	2,425円	
交際費	45,800円	
雑費	7,000円	
会合補助費	322,975円	
立替(本部名簿代)	30,000円	
計	1,987,690円	

III 残 高 (次年度繰越) 502,656円

上記監査の結果適正であることを認めます。

昭和60年5月15日

監事 村 松 直
 監事 村 井 東 助

昭和60年度 事業計画

1. 総 会 年 1 回
2. 顧問会 年 1 ~ 2 回
3. 幹 事 会 年 5 回位
顧問会と幹事会は合同でやる場合もあります。
4. 会報の発行 年 2 回 (6月・11月発行)
5. 懇 親 会 ゴルフ大会(年2回)
釣り大会、ハイキング大会(年1回)等

昭和60年度 静中・静高関東同窓会予算

(S 60.4.1~S 61.3.31)

I 取 入		
繰越金	502,656円	
年会費 1口 1,000円 2口以上×1,250円	2,500,000円	
広告収入	360,000円	
計	3,362,656円	
II 支 出		
会報発行費	520,000円	
名簿発行費	1,050,000円	
消耗品費	80,000円	
郵送費	850,000円	
印刷費	120,000円	
人件費	100,000円	
事務用品費	5,000円	
会合補助費	300,000円	
予備費	337,656円	
計	3,362,656円	

追悼、柳川副会長

ありがとうございました

弔 辞



太郎さん、今日、僕は君の友人の一人としてお別れのことばを述べなければならぬことになりました。

僕はかけがえない親しい友人を遂に失ってしまいました。

凸版印刷顧問、前図書印刷社長柳川太郎氏は60年8月11日、急性心不全のため逝去されました。享年76歳。通夜は8月13日、密葬は14日中目黒の正覚寺実相会館で、また葬儀・告別式は図書印刷社葬として28日午後1時から芝の増上寺で執り行われました。

静岡静岡同窓会副会長として長い間ご尽力くださった柳川さんを偲び、多数の会員が参列してご冥福をお祈りしました。

安らかに……柳川さん。
戒名は大醫院法道日見居士。

ここに友人代表として霊前に捧げられた宮澤次郎会長の弔辞と、鈴木与平・白井茂両氏の追悼記を掲載させていただきます。

太郎さん、そしてやがて君も僕

今は亡き君のご霊前に瞑目合掌するとき、最初に私の胸の裏に浮ぶのは、何といたっても、静岡中学時代の君のすばらしかった模範学生ぶりです。学課の成績は常にトップの座を占め、その上友だちのみんなから「太郎さん、太郎さん」と深く親しまれ尊敬され、いつも級長に選ばれ、同時に、一方ラニングの選手として活躍し、実際に文字通り文武両道の模範生でした。あの当時は学生服のズボンに長目のラップズボンが流行したのに対し、君はそれに反しパッチの様に細いキッチリした、しかも普通より短かい質素な木綿のズボンをビシッと身につけていた、ほんとうに生真面目な質実剛健な君の姿を忘れることができません。

も中学五年生の夏を迎えたとき、甲子園の第十二回全国中等野球選手権大会に静岡中学が優勝し、ともに手の舞い足の踏むところを知らない大きな歓喜と感激に浸り、町を挙げての祝賀提灯行列に参加し、ともにその喜びの渦の中に躍り狂ったものでした。これは百年を超える静岡中学の歴史の中で唯一回の優勝という君と僕にとって忘れ得ない思い出となりました。

太郎さん、君と僕とは中学を卒業してからと同じ旧制静岡高等学校に進み数多くの思い出を持つことになりましたが、その中で際立って印象づけられている君の姿を一つだけ言わしてください。それは君が陸上競技部の部員として、来る日も来る日も熱心に練習に励んでいた姿です。僕は剣道の稽古を終って、夕刻もう暗くなる頃、道場を出てグラウンドの傍らを通って帰るとき君が小豆色のランニングシャツと白いパンツを身につけ、他の部員たちが帰った後も一人残って懸命に走りつづけているのとお互いに「頑張れよ」と声をかけ合うことがしばしばでした。僕は君のあの真摯な練習の姿を今またありありと思い出しています。

太郎さん、君はこのように凡て

のことに真摯に取り組む、その明朗闊達な性格で常に相手の身になって親切に友と交わり、自らにはきびしく人に対しては温かくよく面倒をみてくれました。

そして、学窓を出て凸版印刷に入ってから君はその素晴らしい天性に益々磨きをかけながら幅広い活躍を展開し、その結果、業界並びにお得意先各界から絶大の信頼を得、数知れぬ多くの親友や支援者に恵まれることになりました。

殊に、僕の肝に銘じていることは君が日本国内だけでなく海外の人々に対し、常に日本人としてのまごころを以て接し、凸版印刷の海外発展や東南アジア諸国の技術開発に多大の貢献をされたことです。そしてその中でも傑出した君の功績は戦時中、新しい独立国家建設をめざすインドネシアの為に君の青春の全情熱を捧げたロマンに満ちた活躍ぶりでした。君は心の底からこよなくインドネシアの国と人々を愛し、戦後に於ても来日する数多くのインドネシア留学生に対し、よく面倒をみていました。あのようなことは常人の到底能くなし得る処ではありません。

このようにして君の残された足跡を顧みれば、凸版印刷時代から図書印刷時代を一貫して流れる君

の事業経営姿勢は常に良き人間関係を築いてその基礎の上に事業の繁栄を計った真にヒューマニズム豊かなものであったと思います。

太郎さん、今日の盛大な社葬の光景こそは君が生前の人徳と功績を如実に物語っているものと僕は思います。凸版印刷の最高幹部として国の内外に君が広く活躍していたころ、世間では君のことを「凸版太郎」と呼び君を凸版印刷のシンボル化していたことを思い起すにつけても、如何に君の人格がすばらしいものであったかとしみじみ感じる次第です。

そしてまた、君は会社関係以外に同窓の仲間の世話を、ほんとうによくしてくれました。静岡中学に関しては、関東同窓会の副会長を十年も勤めて頂き、旧制静岡高等学校については、君の後輩に当たる同窓の現総理、中曽根康弘さんを後援激励する静岡仰秀会の監事として、十八年もの永きにわたのご苦勞をおかけしました。僕は今日君の同窓生の一人として静かに過ぎし日々の君の面影を偲び、まこととは感謝に堪えず、感無量と申す他はありません。

太郎さん、君の風貌は見るからに眉秀で人も羨むような長寿の相に恵まれ平素は人一倍健康で元

気だったのに、突然、思いもかけぬ不運な災禍に遭遇し、重傷を負うに至ったのは今から五年前昭和五十五年九月のことでした。それから永い永い療養の期間、一日一日をどんな辛い思いで過ごされたとか、それは我々の想像を絶するものであったらうと唯々心が深くうづき痛む思いです。

去る六月十一日、君が済生会中央病院に入院されてからは、病院の先生方もご家族の皆様も、ほんとうに至れりつくせりの懸命のお手当と看護をなさいました。そして君もそれに応えて苦しい中をよく頑張ってくれました。僕は遂に君のために御役に立つことを何も為し得ませんでした。病室にお見舞いにあがる度につくづくそう思い、今は君以て冥すべしと感じています。

太郎さん、君に今こうしてお別れすることは涯しもない悲しみですが、僕もまたこれを一つの天命と諦観し、謹んで君のご生前のご厚誼に対し深く感謝申し上げ心からご冥福を祈るとともにご遺族の皆さま方の末永いご多幸をお祈り申し上げ次第であります。

では、太郎さんさようなら。

昭和六十年八月二十八日

宮澤 次郎

思い出すことども

鈴木与平（44期）

四十二期凸版印刷株式会社顧問 関東同窓会副会長の柳川太郎兄は予てから病氣療養中でしたが、去る八月十一日に逝去されました。

柳川兄は清水市の出身ですが、しかも、私と同じ町内の本町であり、従って学校も同じ清水尋常高等小学校（現清水市立清水小学校）に学び、続いて県立静岡中学（旧制）に入学、さらに静岡高等学校（旧制）文科から東亜帝国大学経済学部を卒業、凸版印刷に入社された。お宅は目黒区柿の木坂二丁目一〇——ですが、それが偶々私の長女の嫁ぎ先田中の家の通りを東に二百米ばかり行ったところで、長女佐知子も静岡新制七期であり、驚いたことでした。

学校時代の柳川兄は、上級生であり、知ってはいましたが近くに任んでいた割合には、友達つきあるいは少なかったので詳しいことが語れないのが残念です。むしろ社会へ出られ、凸版印刷株式会社に入社、その後子会社の図書印刷に転ぜられ、当時最新式の印刷機を備えた沼津市原の工場が竣工し、見学させて頂いたときお会いしてからです。同窓会本部の会合にも時々顔を見せられいろいろ静岡の

様子などきかれ懐かしそうでした。

いつだったか私のところに來られたとき、応接間に掛けてあったわが社のカレンダーを見て「なかない印刷だが、どこに注文しているかね」と言われますので、「これは本町の西貝印刷（現ニシガイ）です」と申し上げましたら、

「西貝でこんな印刷ができますか、地元の店を可愛がってあげて下さい。何か特殊な印刷があったらうちの会社には色いろありますからよろしく」との話。柳川兄らしいエピソードの一つだと思えます。

同窓会長を私がお引き受けすることになり、百年記念事業を遂行のため、同窓会の組織作りにかかったが、東京に支部を設けたく、その間種々の交渉はあったが、関西、中部の広域支部に倣い、関東支部が設立され、副会長として、本部役員会にも出席され、本部との連絡調整に当たられた。

柳川兄は温厚、人格円満、よく人を立てて事に当り、同窓会には欠かせない人であり、今後益々その活躍を期待していましたのに思い掛けないことで惜しい人を失ったと思います。

本同窓会では先に四十四期の講話社名誉会長野間省一氏を失い、いままた柳川兄を失った。これは

ひとり同窓会だけでなく、静岡県出身在京財界有力者を失ったことになるので、惜しんで余りあり、故人のご冥福を念ずる次第です。

スパイクとシャンソンと

白井 茂（44期）

昭和四年私が旧制静岡高に入って陸上競技部に加入すると二年に柳川太郎さん、三年に桜井忠ちゃん（四二回で故人）がいた。二人は長距離、私は投てきだったが、三人でよく走った。

一学期が終ると夏のインターハイに向けて寮での合宿強化練習が始まる。スパイクが土をかむ感触汗だくになってフィールドのクロバーの上になぶつ倒れて仰いだ夏の夕空は美しかった。インターハイでは三人は一生懸命走り投げたが、入賞のカベは厚かった。

東大の経済にいくとまた一年以上に太郎さんがいた。講座やゼミの選び方を教えてもらったが、よく一緒に映画をみにいった。いまの順天堂大の近くに本郷座という洋画の三番館があつて、二本立てが三〇銭でみられた。静岡でフランス語を学んだ太郎さんはフランス映画が好きで、ルネ・クレールの「巴里祭」や、デュヴィヴィエの「商船テナンティ」という名画は忘れられない。国電（当時は省線

といった）の中まで感激を語り合った記憶がある。

時はぐーんととんで戦後私が朝日新聞に在ると、当時太郎さんは朝日担当だったので毎週のように出版局に顔をみせた。局長室で仕事の話がすむと編集局の私に電話がかかってくる。出版局とも三人で神田明神下のK楼が定席だった。国立音大中退という変わった芸こがいて、小唄端唄はダメだがシャンソンは流石にうまう、原語で「枯葉」を唄わせると絶品だった。いつか私たちはこの「シャンソン酒場」をアジトのようにこっそりたのしんでいた。

何年かあとで太郎さんはヨーロッパ巡りのときバリの小屋ではんものをきいてきたので「やっぱり本場はちがうぜ」としきりに感心していた。

あのいたましい事故に会うまで太郎さんは静岡競技部の青葉会に必ず顔をみせ昔話に花を咲かせていた。伊豆の療養のあと関東通信病院でリハビリに励んでいたときお見舞すると「合宿のハードトレーニングを思い出すよ」と笑っていた顔がなつかしい。

五十余年にわたるいくつかの思い出は私の胸の中に厚いアルバムとなって残っている。

各期便り

四二回

よんにー会(四二期)

別に「天下の静中俺らで持つ」という僭越な気持が有る訳ではないが、結果から見ると名実共にと言っているいか、自他共にゆるすと言っているいか、とにかく「よんにー会」の存在と活躍は同窓会の歴史の上でも特記されてもいいではないかと愚考する。「岳南健児」の気概は誰のと同じであろうが、時たま戦前の敵しい時代に鍛え抜き、甲子園野球での優勝で更に氣勢を揚げ、幸にして人も揃い気も和した結果が今日あらしめた原因ではないかと思われる。

同期は全国各地でそれぞれ活躍しているが、わが関東同窓会に絞ってもその意気軒昂と実績は今更麗々しく言挙げする迄もない。

所がここへ来て急に事態の変化が現われて来たのは気がかりである。「喜寿」の声を聞くのは結構ではあるが、病氣・入院・死亡等段々数を増して来た。「年が年だけに……」等と言うのは昔の事で、

長寿王国の見本を示すのは、いわば端境期にさしかかったと見られている我々の任務ではないかと責任感と意欲が生じて来る。

もともとよんにー会は命名の当初、人並みに縁起をかついで「死に会」を避けたのであるが、人はいつかは死ぬものである。問題は気力なのである。それにはただ気持だけ意気ばんでも何もならない。沢山の長寿の方々の言われる実践項目を公約数的に要約するならば

適度な運動・休息・睡眠・趣味・腹八分・くよくよしない等々挙げられる。中には老いらくの恋も結構多い。ともあれこれらは皆実効は有ろう。しかし何と言っても気概に優る物は無い。七十になり八十になり九十になっても「ああ俺はとうとうこんなにな……」等言いは禁句、新年を迎える度毎に「俺の人生はこれからだ」「俺の青春はこれからだ」と観じる所に将来への希望抱負と驚くべき氣力が横溢して来るし、先に紹介した長寿の実践項目などは気に掛けなくても自らついて回って来るものであ

る。どうか、「よんにー会員」の諸公よ、我々の時代はこれからである。これから一花咲かせようではないか！

追記(年寄りの冷水と笑わば笑え、彼等のお焼香は我々の手では言うのはちょっと言いすぎかな、若気の至りでついどうも。でもそれ位の気概が無くちゃあね。)

(村松 直)

四八回

たのしく、又、若返りの同期会が平河会館で十月十九日に行われた。幹事さん有難うございました。

七十才を迎えた方々が多くなったと思います。私の所では七十才になると無料乗車証が市役所から交付され市営地下鉄・バスと市内を走る私バスが「タダ」になるのでたすかります。

「ルーツ」を調べておった時、祖母あての手紙を見つけた。巻紙に筆で書いてある。安政か元治の頃のもののらしい。読めない。なんとか読みたくて、あれこれしてうちに定年退職、毎日が自由時間となった或る日、新聞に「古文書に親しむ」という催しを見つけ参加したのが今日まで続いており、

足かけ六年にもなりますか。

面白くて時間のたつのも忘れ退屈しません。「古文書」を「コモンジョ」と読むならわしになっております。

古文書とは、

広義の定義は古記録・古日記・系図・古典籍などである。

狭義の定義は発信者と受信者が、また用件等の内容を備えたもの。現在は一般的に狭義の定義に依っている。

大別すると古代・中世・近世に分けられます。古代は奈良時代まで、中世は平安時代、近世は徳川時代と区分しておるようです。

読みはじめてから今迄に、次の三つが頭にこびりついて忘れられない。

①紙に書かれ現存する最古の文章(古代)。

②縦七・九センチ、横六・八センチの文書(中世)。

③女房奉書(中世)と呼ばれる文書。

文章を書く材料の中心は紙であって、木(板)、布帛などは非常にすくない。西暦の六〇〇年代から八〇〇年代においては木が用いられたことも多く、これを現在では木簡と呼んでいる。木簡は近時、各地より多量に発掘され、奈良で

鈴 与 株 式 会 社

取締役会長 鈴木 与 平 (44回)

清水市入船町 11 - 1

TEL (0543) 53-3111 (大代表)

東京支社 千代田区丸の内 2-3-2 郵船ビル 4F

TEL 03 (284) 0551 (代)

トッパン・ムーア株式会社

取締役社長 宮澤 次郎 (42回)

東京都千代田区神田駿河台 1-6

TEL (295) 2411 (大代表)

出土した最近の木簡には日本書紀の内容に関係するものがある由が報道されました。中世になると木は制札・寄進札などに使用されるだけになる。布帛の例は非常に少ない。

現存している古代のものは東大寺正倉院に保存されているものが主で其の他は非常に少ない。

現在、最古とされておるのは、もと正倉院に伝来したが明治の初め町に流れ出し、今は奈良国立博物館に保存されている戸籍の一部で大字二年（西暦七〇二年）とされている。

紙の形は半紙型が基本であり、之を横長に置いて使用する。

古文書の勉強はゼロックスによるコピーを教材とするのであって古文書そのものではない。ほんものは博物館などで陳列されているのをガラス越しに見るだけである。手でさわって昔の紙の感触を味わうなど出来るものではない。

原寸が縦七・九センチ、横六・八センチの小さな書状のコピーを見せられた時には驚いた。半紙大ばかりと思っておったのにこの小型。紙ではなく絹布である由。この小型の四〇字の書状が書かれた時は元弘三年（一一三三）、後醍醐天皇が隠岐を脱して伯耆国船上

山に移った時で鎌倉幕府は足利高氏を山陰道に派遣したが、高氏は幕府に叛き天皇方につき、薩摩の島津貞久に足利方につくことを求めた密書である。古文書の内容と歴史を結びつけるのも楽しみの一つである。

女房奉書。天皇側近の女官が天皇の意を或る人物に伝えるために散し書と呼ばれる方法で作ったものである。教材には歯が立たない。何か別の表現方法があるのかとはの考えにも及ばなかったのは赤面のみ。

草稿の雑然としたものになり赤面のいたり。御寛容の程を。

（北村三明）

五〇回

養生談

「養生の工夫は、節の一字に在り」（言志晩録二八〇）。昔から「腹八分」とは真を突いた言葉である。講談社学術文庫の言志四録訳注者川上正光先生は、次の紹介をされている。

一、孫思邈の十二少 思を少なくし、念を少なくし、欲を少なくし、事を少なくし、語を少なくし、笑を少なくし、愁を少なくし、楽を少なくし、喜を少なくし、労を少なくし、好を少なくし、悪を少な

くせよ。

二、江村専斎の些の一字 臣、平生唯だ一些字を持す。飲食些し、思慮些し、食生些し、この他宣術あらんや。

三、健康十訓（二木謙三博士）の食べるのを少なくし、かむのを多くせよ。②車に乗るのを少なくし、歩くのを多くせよ。③着るのを少なくし、浴びるのを多くせよ。④心のもだえを少なくし、働くことを多くせよ。⑤なまけることを少なくし、学ぶことを多くせよ。⑥語ることを少なくし、聞くことを多くせよ。⑦怒ることを少なくし、笑うことを多くせよ。⑧言うことを少なくし、行うことを多くせよ。⑨取ることを少なくし、与えることを多くせよ。⑩責めることを少なくし、ほめることを多くせよ。四、中国長寿会の秘訣 ①過度の肉体的快楽を慎むこと。②興奮しない。怒ってはいけない。③暴飲暴食を慎むこと④果物を多く食し、水を沢山飲むこと。⑤栄養豊富な食物をとること。⑥年を気にせず、大いに運動すること。⑦戸外で新鮮な空気を吸うこと。⑧生活環境を清潔にすること。⑨大いに笑い、人助けを楽しむこと。

その他、手元にある「養老十戒」

は、①歯を大切にすべし（一日三回なるべくゆすり磨く）。②梅干を日に一つ食べるべし（唾液と不老ホルモンが出る）。③年に一回は必ず成人病検診を受けるべし（早期発見）。④脳卒中にならぬよう心がけるべし（よく食べ、よく運動せよ）。⑤月に一度は春画や、ヌードカレンダーを観るべし。⑥「第三の足」を丈夫にすべし。⑦「金の袋」を大事にすべし。⑧金銭の心配をし過ぎるべからず。⑨日に一度は鏡をみるべし。⑩食べていたものがまずく、飲んでいたものが飲みたくなく、疲れやすい時にはすぐ医者に相談すべし。とある。

とある。

私自身は「S・ウルマン」の詩「青春」の第一行「青春とは人生のひとつときをいうのではない。それは心のもちようをいうのだ」を座右の銘として、常に新らしき前進を心がけている。怠け心が起ると鏡の自分を叱咤激励し、「継続は力なり」をかみしめている。七三配を六〇配に減量し、節食とテニスが続いている。自然界は極めて厳しく、自分が餌がとれなくなれば死ぬしかない。従って「老い」という現象は人類にしかない。がただ生きているだけでは、つまらないと思う。最近「お前は

同窓会コンベンなど、ご相談ください。

伊豆大仁カントリークラブ 伊豆大仁開発株式会社

代表取締役 石橋正秋
取締役支配人 安田正弥 (66回)

静岡県田方郡大仁町浮橋字南松坂1198-1
TEL 0558-76-2401 (代表)

建築設計・監理

株式会社 ユニオン設計センター

代表取締役 成岡英彦 (67回)

一級建築事務所登録7425号

東京都新宿区西新宿7-14-9 規格ビル
TEL 03-363-8604 (代表)

碁・将棋・麻雀・テニスとすべて勝負に關係するものばかりやっているから、人間として円みに欠ける。絵を描く、音楽を聴く、俳句をやるとかの趣味を持って」と親友が忠告してくれたのがきっかけで俳句をやりはじめた。「お前の句は説明や論理が入り過ぎる」との先輩の御指摘をうける。初歩というところがあるが、性分は仲々直らないものだ。十一月三日は大安吉日で、ほうぼうで結婚披露があった。その頃先の親友が「日本で見失ったものを、スペインで発見した」と連絡してきた。

○文化の日言葉選ばぬ祝詞聞く

○文化の日スペインに見しと友の告ぐ

年が明けたら同期会を開きたいと念じている。学友諸兄ご自愛を乞う。(永田 激)

五一回

遠方より友来たり

既にお知らせのように五一会とは五一期のクラス会の愛称です。例会は春秋一回ずつ東京と静岡で交互に開くことにしています。最近では去る四月二十七日(土)有楽町「一松」で通算第三〇回の五一会を行ないました。出席の通知が二三名ありましたがその後の都合

で取消があり結局当夜は一七名集まりました。遠方からは芦屋市の河瀬士郎君、静岡からは遠田毅、正野良市、牧野三郎君の三君でした。出席の方々のお名前は後記の通りです。この十一月十六日(土)には静岡で行うことになっていました。五一会は少くとも五一回まで行うことになっていきますのであと二十回となります。言い換えれば、あと十年ということになります。そのとき会員は数え年が満年齢で七十七才つまり喜寿となります。皆健康に留意して全員で五一回目の五一会をお祝いしたいと思っています。

出席者氏名(前記四名を除く)

伊藤濱吉、下山富太郎、榎田長、玉越俊一、永井五一郎、林盛次、飯田鉄雄、藤根次郎、大富部国男、高橋達郎、森弘、寺尾利男、佐伯正剛 (佐伯正剛)

五三回

一片の黒耀石

私の中学生時代の静中には、郷土研究会というクラブがあった。関東同窓会幹事長の月見里得知郎君もその重鎮として活躍されていた。このクラブでは、大沢和夫先生・沼館愛三先生ほかの諸先生の御指導の下に、握り飯を腰にぶら

下げて、静岡市近傍の神社仏閣・安倍山城跡・宇津の谷峠等を歩き廻ったものであった。その行事の一環として小鹿にある片山廃寺跡付近やNHKアンテナのある谷津山の山麓で、「やじり」(鏝)や土器破片を拾いに行った思い出がある。その時の楽しみが忘れられず今でも旅行先で山の形や地形を見れば『先住民の遺跡があるのではないか』とか、『土器が出そうなのだな』とかと想像をたくましくする癖を持つようになった。戦後、防衛庁に奉職して砲弾の射撃試験に参加する機会が多くなったが、駐とん地の資料館に陳列された演習場内での発掘石器土器類を見ることも楽しみなとなった。

在職中の私の仕事は砲弾などに装着される信管に關連するものであったので、射撃試験を行うために青森県下北半島に出張することが多かった。この地方は寒冷地ではあるが、太平洋岸にあるので比較的降雪量が少なく、昔はアイヌ族を含む先住民族が居住していたことを伝え聞いている。(下北半島の白糠と老部の両部落に住んでいたアイヌ族が北海道に渡って白老部落を作ったと云はれている)試験場付近は、西側が丘陵となっ

て海岸線に沿っている狭長な地形であり、土地の人の言によると、数箇所石器や土器が発見されているようである。射撃試験は南北15杆にわたる直線的な砂浜で行なうのであるが、その地区内に赤土の部分で数箇所あり、今でもここで石器片が発見されることがある。かつて、私も石英質系と思われる硬質の石で作ったやじりや穀類などをすり潰すに使われた握り拳大の長球形の石を拾ったことがあった。

内科・外科・整形外科・皮膚科・放射線科
人間ドック

ねつ かん
熱 函 病 院

院長 小 坂 博 (67回上)

住 所 熱海市春日町12-2

TEL 0557-83-3131

話題のスペース

(明治通りと大久保通りの交叉点)

レストラン・モア

小人数から30名様くらいまでクラス会等に最適です

土 屋 晃 康 (67回上)

TEL 03-208-2931・204-1251

東京都新宿区大久保2-1-3

った。

出張より帰ってから、現住地の資料館で調べたところ、(形は不細工ではあるが)今から一万七千年〜二万五千年以前に使用されたスクレーパーであるらしいことが判明した。

今年10月に65才を迎えるにあたり太古及び私の静中生徒時代といふ二つの昔を追憶する思い出を手に入れたことになる。

〔消息〕

1、53期生の同窓会を11月27日に例年通りビストロ・ラ・ポストで行う予定である。

2、徳永悠久の住所が左記のとおり標示変更されましたので御通知します。

上福岡市元福岡2丁目14-4

(徳永悠久)

五五回

自動車保険の常識

昭和四五年をピークに一時減少していた交通事故は、五三年以降再び増勢に転じ、年間、死者一万人負傷者七〇万人に達する情勢です。何時わが身にふりかかるかわからない交通事故による精神的肉体的苦痛は金銭では償えませんが、事故に遭わぬ注意が肝腎です

が、万一事故にあった場合せめて経済的な負担だけでも軽減しよう

と云うのが保険の目的です。然し保険屋さん任せで内容を承知せずそのために損をされる例が少くありません。難しいことは専門家に任せるとしてもせめて次のことぐらいは承知しておきましょう。

一、自動車損害賠償責任保険(所謂強制保険、以下自賠責保険と略称)

法律で自動車(バイクを含む)

に必ず義務づけられている保険です。自動車の運行に関して相手手死亡或は怪我させた所謂人身損害に対し賠償責任が生じた場合は支払われます。本来は死亡又は怪我させた側(加害者)が相手(被害者)に支払った賠償金を回収するための保険ですが、加害者が支払わない(支払えない)場合には被害者が直接加害者の保険に請求することもできます。保険の対象となる人身損害とは、

(1)傷害の場合は医療機関(病院、接骨院、あんま、マッサージ等)の治療代、通院交通費、必要な場合の看護料、休業損害、眼鏡義手(足)等身体機能を補う器具の修理代、慰謝料等があります。慰謝料は年令地位等に関係なく実治療日数に応じ定額(現行は日額三

四〇〇円)が定められていますがそれ以外は妥当な実費が一二〇万円を限度として支払われます。

(2)死亡損害は逸失利益、慰謝料、葬儀費等が所定の計算要領により二五〇〇万円を限度として、

(3)後遺障害が残った場合は等級に応じ最低七五万円から二五〇〇万円までが支払われます。

二、任意保険

自賠責保険の支払い限度を超えた損害、自賠責では対象にならない事故及び物の損害を保障する保険です。少し大きな怪我になりますと治療代だけで一二〇万円を超える例は珍らしくなく、また死亡損害も自賠責の限度を超えるのが殆んどです。車を運転する以上是非とも加入しておきたいものです。自賠責で支払われた金額にプラスして契約金額の範囲内で保険金が支払われます。(契約高五〇〇〇万円の場合、二五〇〇万+五〇〇〇万、計七五〇〇万円まで)

任意保険には色々な種類がありますが、自家用車の場合には対人賠償保険(自賠責に上乗せするもの)自損事故傷害保険、無保険車傷害保険、搭乗者傷害保険、対物賠償保険がセットになっており、これに自車の損害補償のための車両保険を加えることもできます。事故

の場合相手との示談交渉は保険会社が代行して呉れます。

三、以上ごく簡単に説明致しましたが、詳しくは各保険会社の窓口または損害保険協会が全国各地に設置している「自動車保険請求相談センター」(都内及び近郊の方は〇三―二一六―二〇九三の東京相談センターでご近所の相談センターを紹介して貰って下さい)にご相談下さい。一切無料で相談にのって呉れます。然し保険の請求手続きは結構わずらわしいものであり、また最小限の補償しかして呉れませんので、呉々も事故を起こさぬよう遭わぬようご注意ください。ことを重ねて申しあげます。

(戸塚正五)

五九回

癌のはなし

春は総会のあと、秋は十一月の第二金曜日と、年二回、新橋の太洋で集まりをやっているが、ただ飲んだり、食ったり、喋ったりするだけでもションナイということ

で、このところ、うたげにはいる前にタメになる話を小一時間ほど聴くという試みをしている。

この前は清水汪君による日本の経済の話だったが、今回は三輪源君の「癌について」。同君は国立

やる気を引き出して
集団の活性化を実現する
経営コンサルタント

永 田 激 (50回)

〒235 横浜磯子区森 1-15-1
第1磯子ハイツ 911号
TEL 045-752-2180

癌センターなどにも永年勤めた斯界の権威である。飲み食いの前に腫れもの話もどうかと思つたが我々の年令では切実! 皆ききたいということで実現のはこびとなつた。多くの人が知っていたほうがいいので、話の要点を紹介して見よう。

癌による死亡率は年々増えている。これはまず日本人が長生きをしたし、年寄りが多くなつてきたことによる。しかしそんなに無茶苦茶に増えているわけでもない。癌には増えてゆく癌と減つてゆく癌とがある。これを発生の部位で分けると、胃癌はピークを越え

た。原因は食物の欧米化や、栄養が良くなったというようなことにある。逆に増えたのが大腸癌で、肉食、脂肪食が多くなったせいと見られる。同じ理由で増えているものに乳癌がある。肺癌の増加も御存知のとおり。また高令者が多くなったことで前立腺癌が増えている。

癌は罹ったら最後、皆んな死んでしまうわけのものでもない。もちろん治療率のわるいものもあるが、大体75%は治っている。大腸癌は50%、胃癌は25%治る。しかし肺癌はむずかしく、10%までは治っていない。治らないということとは死ぬということだ。

しかし癌で死ぬということ、癌に罹るといふことは違う。ちょっと古いが昭和53年の統計によると、男の人口10万人につき、どのような種類のものにてあれ癌に罹る率は全年令で24人となっている。この数は40才を過ぎる頃から急に増え、60才を超すと40代の約10倍になる。

この他、男の人が生涯のうちに癌になる率などというのもある。それによると、0才の人が74才になるまでに20%、60才の人が79才になるまでに約30%がやられることになっている。今まで無事に過

ぎたからもう大丈夫というのではなくて、年をとればとるほど罹患率が高くなるというのだから不快な話だ。

そこで知りたくなるのが予防についてだが、癌を完全に防げるかどうかとなると残念ながらこれは



できない。癌の予防には一次と二次があつて、一次予防とは癌にならないような防ぎ方、二次予防とは癌になっても死なない方法という。二次の方法からゆこう。

癌に罹ってしまったら、出来るだけ早く見つけて治療するしかない。発見が早ければ早いほど治る率も高いのだから、個人にせよ集団にせよとにかく検診を怠らずに

やることである。少なくとも三年に一度。肺のほうは結核検診の時ついでにかかるから、胃のほうを必ずやること。検診に不精をするな！が第一。そのあと適宜な治療をうけることはもちろん。

知りたいのは一次予防のほうだろう。「がん防止12ヶ条」というのがある。

- 1、偏食しないでバランスのとれた栄養をとる。
- 2、同じ食品を繰り返して食べない。
- 3、食べ過ぎを避ける。
- 4、深酒はしない。
- 5、喫煙は少なくする。
- 6、適量のビタミンA・C・Eと繊維質の物を多くとる。
- 7、塩辛い物を多量に食べない。
- 8、ひどく焦げた部ぶんは食べない。
- 9、かびの生えた物は食べない。
- 10、過度の日光に当らない。
- 11、過労を避ける。
- 12、体を清潔に保つ。

以上のとおりだが余りスペースとしないではない。これでは益軒の養生訓とどこが違ふのかといふかる向きもあるかも知れない。ところがこれは積みかさねた研究成果が盛りこまれた玉条なのだそ

うである。

一つ一つの説明は省くが、けげんに思うところを拾って見ると、「かびの生えた」とは落花生のことを考えている。これにつくかびは強力な発癌性をもっている。

しかし国産の物には余りつかないし、輸入品も国で管理するから、ひき出しの中にしまい忘れたのを食べるというような、それこそシケたことをしなければまず大丈夫という。

「過度の日光に」というのは皮膚癌、特に悪性黒色腫の発生を警戒してのことである。しかしこれは白人に多いものであり、我々があまり神経質になる必要はない。「体を清潔に」は包茎のことを頭においている。これは本人が陰茎癌になりやすいばかりでなく、セックスした相手の女性にしばしば子宮癌を発生させるというのだからヤバなことだ。

「同じ食品を」とは専ら癌ができるメカニズムの視点から。平たくいえば、一定の食品が或る人にとって、たまたま癌の起爆剤や促進子をふくんでいる場合、同じ食品を続けてとればそれらの因子が溜つてついには発火する？というところ。「偏食しないで」は、色いろな食物をとれば因子が薄め

られたり、その毒を消すものを食べるといふ結果になったり、というもの。

「適量のビタミン」も毒消しの役。「繊維質のものを」ならもっと単純な理屈で、便通を良くし、癌を発生させる因子が腸内にとどまる時間を少なくすることに

六〇回

卒業四十周年にあたって

十月十九日、昨年に引続き今年も静岡・常盤町の求友亭で同期会開催。地元静岡・清水在住の諸兄の他、東京・大阪方面からも数名が馳せ参じて総勢五十一名が集った。

会は佐藤祐信君の司会進行で、まず物故された期友の冥福を祈って一分間の黙禱、続いて幹事代表才茂英君の挨拶で始まった。乾杯の音頭は当日最も遠くから

参加したということで、現在勤めの関係で大阪住いの安田正之君。

わが六十回は昭和十五年四月入学、太平洋戦争もいよいよ終局を迎えようとしていた二十年三月の卒業であり、今年が丁度卒業四十周年になる。静中時代の五年間は戦局がはげしさを増すとともに、次第に勤労奉仕と軍事教練に明け暮れるようになり、十九年の七月からは小鹿の三菱発動機に本格的な勤労働員となつて、いわば暗い谷間の青春時代ではあったが、今になってみればあれもこれもみんな懐しい思い出ばかりである。

酒が廻るにつれて求友亭の大広間に五人六人といくつかの車座が出来てこうした思い出話に花が咲き、ブーカン、イビツ、クリッパ、ガマサンなどなどわれ等が恩師のなつかしい名前もとび出してくる。

宴酣とともに杉本武君の飛入り司会で黒田武之助君、笠間達男君上杉重吉君、小林金次君等の近況報告があり、なかならず、渡辺皮膚科医院の院長としてメイ医の誉れ高いチビケンこと渡辺博君の養毛訓は、近來とみに頭頂に秋風の吹き始めた期友諸兄には極めて示唆に富んだお話であった。

また、蒔田平八君の尽力で最近出版された静岡大空襲の記録画集「街が燃える人が燃える」が紹介され、当日蒔田君が持参した二十数部は瞬く間に完売となった。

さらに幹事から「六〇回」四十周年記念誌の編集について状況報告と期友各位の協力要請があり、最後は「岳南健児一千の……」の大合唱で締めくくり、来年の再会を約して閉会となった。

(堤 崇)

六一回

随筆「ラーメン」談義

前々号で「そば」談義を書いたが、残念ながら「そば」は昼食としては割高となり又、淡白でもある。従つて、此の頃はラーメンを食することが多くなつた。

さてそのラーメンであるが、テレビ、週刊誌等で解説や紹介が多いが旨さのポイントは勿論麺とスープである。先ず「麺」。シコシコした歯応え、コシの強さが必要で、この点、自家製の手打ちに限る。機械切りに比べスープが良く乗るからとも云う。小麦粉にかん水、卵を混入し練り叩く。板状に延して重ねて切つた所謂柳麺が大半であるが、棒状にして引張つて伸ばす所謂拉麺もある。なおかん水は昔は天然のものであったが、

今は化学的な合成品で炭酸カリウム、炭酸ナトリウムを主成分としている。「うどん」との違いとなるものでラーメン特有の硬さ、淡黄色、チヂレをもたらしものである。なお麺は打つてから一日程度冷蔵庫で寝かすのが良いと云う。

次に「スープ」。豚骨、とりがら、野菜(ニンジン、タマネギ、ジャガ芋、ショウガ等)、煮干し、昆布等を混入し煮込む。毎日毎日その当日分を仕込む。スープの濁りを避ける一方、適度の脂が必要であるとのこと。永福町の「大勝軒」では、豚及び鳥を使はず専ら片口鰯の煮干しを使用しているとのことである。

次に「タレ」。生醤油その他。チャーシューの煮込汁を使う店もある。そして「具」である。メンマは、支那竹、麻竹の干筍を塩抜きして醤油でコトコト煮込む。チャーシューは、ボイルしたもののが大半であるが、日本橋「たいめい軒」ではキッチンと焼き且つ紅糟を塗つてある。その外の具はねぎ、鳴門巻、のり、もやし等である。そして化学調味料を沢山入れる。

以上で東京ラーメンの出来上りである。澄んだコクのある醤油味のスープ、細いチリチリした麺を身上としている。これに対し札幌ラーメンは濃厚なスープ、かん水塩の効いた麺、そしてタレに味噌を主力とし具にもやしが多い。又九州ラーメンは、同様に硬い麺、濃厚な白濁スープを身上としている。

人が行列を作っている。そして荻窪「丸福」。北口を降りて焼鳥を食べ青梅街道に出る。ここも又、同様行列を作り気ながに待っている。

その他、中野「高揚」。場所が不便で且つラーメンが八百円と高いが確かに旨い。東京中をホッパ歩きながら新しい店を開拓するのまたのいいことである。

(安原徹治)

六二・六三回

62 63 回同期会静岡で開催

想い出のあとバスで周遊
60年6月15日午後一時、静岡駅南口を出発したバスは、御幸通りを通過して母校へ。校庭にたたずめば竜爪山を仰いで一同感無量。こうして同期の者と一緒に校門をくぐるのは40年ぶりである。浅間神社の百段で卒業写真と同じ構図で記念撮影をする。

バスは市内を通りぬけて動員先であった三菱重工跡へ向う。現在は三菱電機の工場になっているがこの辺が一機あの辺が三機と往時を偲び合う。

住友校舎付近を窓外に眺めつつ登呂遺跡へ向う。芹沢銈介美術館では水野光太郎先生の専門的解説を聞きながらゆっくりと観賞し、

もちの家にて休憩後本日の会場ステーションホテルへ向う。

さすが地元、百名余が続々と参集、なつかしい顔ぶれがあちらこちらで輪をつくり熱気溢れる会合となった。吉永君の司会で進行、あっと云うまに時は流れてゆく。

翌日は藤枝ゴルフクラブでコンペを開催し16名が参加したが森大三君が優勝を飾った。

いろいろ盛りだくさんで楽しい同期会であった。詳細は何れ同期会誌等を通じ期友にお知らせする事になる。

(伊東 守)

六四回

十月末日から八日間、敬友、名波、岩本君の家族とニュージラノンドのクライストチャーチという町を訪ねて散策した折、フト静岡の街を想い浮かべた。

駿府城内堀の青い水、草深の街なみが、今立っている木々の緑の中に小川が流れ車も少なく、全く静かな町であった。良き街路であったなとおもう。それだけ老いてしまったのだろうか。

私共六四期は今年五五才、昔ならば定年の年になる。人生の一つの区切りとして、静岡、東京合同同期会を開催することになり、秋山近藤、河村、桜井(一)、山下諸兄



君、三位は伊東殿君。

秋晴れの十月十月体育の日に恒例の第六回ゴルフ大会を六六期安田君の協力で伊豆大仁カントリー倶楽部に於て開催、十八名の友が参加。優勝は女子付属小バーティ組の村上幸之君、準優勝も塚本光彦君に輝いた。一昨年ドラコン賞を獲得した神谷武男君は猛打賞のメーカーとなった大珍事。初参加山本和彦(オリジン電気営業本部長)、久しぶりに出席した増田誠男(東京書籍取締役)、山本光夫(ホテルニュー神田副支配人)、渡辺素夫(NE東実総務部長)君等。

来年又皆で共に語り飲み歌う事を約して別れた。(野沢正憲)

六六回

三人が初参加の同期会

恒例の関東地区第六十六回卒業生の同期会が十一月八日夜、会場はおなじみとなっている東京・新橋の「大洋」で行われた。田中俊男幹事らのご努力で、この会も六回目を数え、同夜は初参加の三人を迎え十九人が出席、秋の一夜を痛飲、旧交を温めた。

初参加は藤原隆二、前田和彦、佐藤六登志の三氏。三人を代表して藤原氏が、「事務局の方では、



私が行方不明となり音信不通だった。それが商売上の相手が静岡OBということまで所在が分かった。仕事は東洋高圧に入社、その後、合併によって現在は三井東圧に在職。高校時代は虚弱だったが、大学に入ってボート部で鍛えた」とたくましい体、日焼した元気な顔であいさつ乾杯の音頭をとった。佐藤氏は三井鉱山に入社、大牟田、東京、岩国、大阪、東京と転勤を繰り返して、いまは合併した三井石油化学に勤務。前田氏は十五年ほど前から横浜に住みボーラ化成工業の研究所に勤務して新製品の研究、開発をつづけている。

なべ料理を開んで酒をくみ交わし、ビールをつぎあって歓談はつづいた。卒業後三十五年、全員が五十代の中盤に入り健康、定年、出向などの問題、さらに息子、娘の縁談などにも話が及んだ。

結婚話は田中幹事から大村敏夫氏のお嬢さんで、宝塚歌劇団の舞台に立った梓のぼるさん芸名が来年二月、俳優の金田賢一さん(父親は元プロ野球投手金田正一氏)と華式すると報告があり大きな拍手を浴びた。また田中氏の息子さんバンド「スクエア」で活躍、日本武道館で公演したり、テレビにも出演していると紹介があった。

話がはずみ、追加会費を集めるほどの盛り上がりをもて、記念写真撮影、肩を組んで校歌を高らかに斉唱して三時間近い同期会を打ち上げ、来年の再会を約束して散会した。

出席者は次の二十氏。(順不同・敬称略)

田中俊男、武藤勇、大村敏夫、久保泰夫、石川利二、河守輝雄、佐藤六登志、前田和彦、尾入泰彦、湯浅謙、早見幸雄、藤原隆二、長倉良平、菅原馨、小島清司、三原載、大坪信之、山下智康、安池智策、山本俊夫 (石川利二)

六七回

体罰と時代

「戦前・戦中の静岡中学を知っている学生なら「ジョン爺」の存在は忘れてはいまい。本名後藤又一先生。」

軍事教練を担当して、見かけはともて好々爺風なのに、いざ教練となると、ものすごい頑固ちびいに豹変するので油断がならなかった。

昭和二十年の終戦直前に入学した私も、このジョン爺の洗礼にあった。

ある日、友人と二人で校舎と校舎の間の露地のような細道を通りぬけようとした時である。むこうからジョン爺がひょこひょこことやってきた。私と友人は道の片側に身体を寄せて窮屈ながら直立不動の姿勢をとり、拳手の礼をした。

ジョン爺の足がびたッと止った。

「なんだ！ その敬礼は」

ジョン爺は私の顔に自分の顔なめるほど近づけてにらむ。こっちは何が何だかわからない。

「貴様、敬礼をするのに横着するな！」

ジョン爺はそう言うと、敬礼している私の右肘をポンとはらった。

それでわかった。私の肘が隣りの友人の肩の上ののっているたのである。

「ここは、あの、せまいので……」

言いわけをしようとする私の頬へ疾風のようにビンタが放たれ、

「この上、言いわけする気か」と更にもう一発が見舞われ、そのあと、何事もなかったように、

ジョン爺は去っていった。二度目は教練の時間であった。はつきりした内容は記憶していないが、校庭の真中に我々のクラスが集合して、ジョン爺から訓話を聞かされている時であった。

戦中の長谷の校庭はブルのあたりに射撃訓練場が出来ていて、上級生たちは盛んに実射の訓練をしたものだ。その時も、下級生にとっては魅力的な鉄砲の音が聞えてくる。私はいつしかそれに気をとられていた。

ふと目の前に異様な雰囲気を感じて視線をもどすと、なんと、ジョン爺がものすごい形相で立っているではないか。

「どこを見ておった！」

ジョン爺の怒声で私はおののき、うろたえ、

「はッ、あつちであります」

と口から出まかせに言ったが、これが又よくない。

「あつち」とはどっちだ！ 教師を貴様は馬鹿にするのか」そこで例によって念入りな往復ビンタをくらったのである。

五十才をすぎた今、あのジョン爺の体罰が、うらみどころか、かえってなつかしいのは何故だろうか。一つの時代というものが、なぐる運命の者と、なぐられる運命のものをつくり、それがごく当り前のこととして通ってしまっているから、個人の間には怨念という

ようなものが存在する余裕はなかったのかも知れない。

体罰の是非をうんぬんする昨今だが、体罰そのものの功罪よりも、悪しき時代をつくり育んでいくものにこそ、きびしい眼を据える必要があるとそうだ。

(山川静夫)

寄稿者山川静夫君のこと

ご存知、NHKの名アナウンサー。古典芸能に関する含蓄は当代随一のアナウンサーで、民放を含めても、他の追随を許さない。

あまり知られていないが、高校野球の大ファンであり、勿論、静高野球部への熱の入れようは並ではなく、夏の甲子園大会の予選で母校がベスト8に残ろうものなら

あの炎天下、準々決勝・準決勝・決勝戦と三日間草薙球場へ日参である。アナウンサーの生命である声帯を潰してしまおうのではないかとまわりが心配するほどの声援ぶりだ、その本人の夏季休暇も、静岡県大会の予選のスケジュールに合わせているような節が見受けられる。

在学中は、サッカー部に籍を置いたことがある仲々のスポーツ好きで、「ウルトラアイ」の司会での身のこなしの軽やかなことが肯けるのである。

NHKでスポーツ部門を兼ねられないのが残念である。母校の甲子園での活躍ぶりを山川の実況中継でテレビ観戦してみたいと思うのが同期生の夢であるが、これは無理であろう。

こうした彼が、静中・静高在学当時のことに触れた短文もふくむ随筆集「夕空はれて」を出版し、静岡新聞の書評コラム「一言抄」に左のように紹介されている。是非ご愛読願いたい。

「夕空はれて」

山川静夫著

△内容▽静岡市出身のNHK山川静夫アナが、幼年時代や身辺のことを、折に触れて書いたほのぼのエッセーだ。同アナはなんといい

ても、大みそかの「紅白歌合戦」の白組司会者有名になった。昭和四十九年、宮田輝アナが国会議員に転出、そこでバトンタッチした山川アナが、司会におののいた思い出などをつづり、やはり「紅白は遠くで見えるもの」と実感を吐露している。題名について「夕空は昭和ヒトケタの私にとって最も感傷的な空だからこそ、せめて夕空を晴れさせ、明日の快晴に期待をつなきたい」と、言うようにカラッとした筆感だ。

△一言▽幅広い体験と見聞がにじみ出た好随筆。

(広池学園出版部) 千葉県柏市光ヶ丘二ノ一、B6判、二二二ページ、九二〇円

(梶原由三)

七〇回

整形外科医となりかれこれ四半世紀がたちました。毎日の診療の中で、腰の痛みを訴える方が実に多いのに気づきます。

我々の祖先は四足の状態から二本足になる過程で腰と頸に大きな無理を重ねて、大変危ないバランスの起立姿勢へと進化しました。従って一度バランスがくずれて悪い姿勢になると、腰の痛みが起ってくるようになります。この意味

で、腰痛は人類にとって宿命的なものであるといわれています。腰痛を起こす原因となる疾患は、年令とともに変わっていくものですが、我等五十歳代の代表選手として、変形性脊椎症をあげることができません。これは脊椎の老化現象のあらわれであり、柔軟性を失いつつある脊柱が、日常の身体動作を支えようとして、十分に果たすことができないもどかしさを痛みとして表現するようになったものです。

それでは、腰痛を予防することは出来ないものでしょうか。腰については、知れば知るほど、私たちの体の中でこんなに重い負担にあっていいるところはないことに気づきます。おそらく腰痛を十分に予防する事は困難なことでしょうが、予防の要点として二つをあげることが出来ます。

そんな方は仕事の合間に次のような体操をおすすめします。固めの椅子に浅く腰かけてへそをのぞきこむ運動、片膝をかかえてのおじぎ、次に椅子をとりぞいて、しゃがみこみ運動、腕立て伏せ、脚を交差しておじぎ等々です。

第二は、無理な姿勢や動作で腰に負担をかけないように、日常生活のなかで注意することです。現代の私たちの生活では、不自然な姿勢や動作をしいられることが多くなっています。

立つ時の姿勢については、おなかをつきだし、腰を前に出す姿勢は避けるべきです。おへそをひっこむようにして軽く腹筋を緊張させ、背中を平たくして、あごをひいて頭の上の方に軽くひっぱられるような気持で立つとよい姿勢になります。

座ることにより腰のうけるストレスもばかにならないものです。生活が豊かになり、低く柔らかいソファや、自動車の座席にすわることが多くなっていますが、これは腰のまがりを強制するために腰にかなりの負担がかかることとなります。膝を直角に曲げて腰掛けてみて足のうらが床にびたりつく高さの固めの椅子がよいでしょう。又、長時間すわる時には、

時々膝を組むことをおすすめします。

寝る姿勢も、腰に大変な影響をおよぼします。まんなかで沈みこむような柔らかい寝具は、慢性的な腰痛をおこします。寝苦しくない程度の固めの寝具を用い、あお向けに寝る時は、少し膝を曲げて膝の下に枕などをおき、腰のそりを軽くします。

日常の動作の中で注意しなければならぬものは、重い物を床から持ち上げること、中腰になること、しゃがんで仕事をするなど、急に腰をひねる事などです。

物を持ち上げるときは、かならず膝を曲げ、荷物を身体に近づけて膝を伸ばすことにより持ち上げるようにします。

草取り、マジャン、洗顔、咳など腰痛をおこすことは以外に多いものです。長時間にわたって同じ姿勢をとる時は、ひんばんに腰を伸ばすのがよいでしょう。

腰痛ほど自分自身の努力が必要とされる病気はないと思います。そのためにも生涯の友となるスポーツをみいだすことが必要です。我々医者はせめてよき助言者として多少なりとも役立つことが出来ればと願っています。

(小林孝光)

七一回

卒業三十周年同窓会

昭和三十年卒業生の三十周年記念同窓会が去る五月十八日、静岡駅隣のターミナルホテルにて盛大に行われた。この会には全国各地から一〇〇人の同期生が参集し、さらに北川善平先生、森繁先生、渡辺藤男先生、杉山一与先生、宇佐美雄司先生、小泉保先生、吉川晴夫先生、三浦孝一先生、田口一夫先生、斎藤欣三先生、久保田薫先生の十一人の恩師の方々と、一年先輩で現在静岡市長を勤めておられる河合代悟氏の来臨をたまわることにより趣が加えられた。

会は静岡放送勤務のその道の専門家である青木輝君の司会で進められ、まず幹事を代表しての磯谷育男君の挨拶の後、各先生方からはそれぞれに近況紹介を中心としたお言葉をいただいた。次いで最も遠方の高知から出て来た竹原享君の首頭で乾杯を行い、その後は立食形式で飲食を楽しみながら三々五々の歓談に入った。その間会場に特別に設けられたスクリーン上に往時をしのばせる数々の場面が映し出され感慨一入であったが、不幸にして幽明境をこにしている九人の旧友のありし日の

姿に対しては、一同あらためて冥福を祈りつつ黙禱を捧げた。

最後は恒例のごとく、岳南健児の大斉唱でまたの日の再会を心に約束しつつ会の幕を閉じることとなった。この会を成功に導いた幹事諸兄のご尽力に感謝するとともに、次の機会にはより多くの参加により一層意義深い会となることを願うものである。

この「夜の部」の同窓会に先立って、午後三時より同窓会館において吉川先生および小泉先生の記念講演会が催された。

吉川先生はこの度教育長の職を後任の三浦先生に譲られ常葉学園大学副学長に就任されたのだそうであるが、先生の長年主張しかつ実践してこられた教育理念、たとえば「教育は対話であり、対話の中で相手を見詰めるためにはまず自分を見詰めることが大切」「はからざるかわり合いの中での教育」「目前心後」といったことなどを昭和57年5月1日から7月31日までの静岡新聞の社会時評「窓辺」欄への寄稿12編をテキスト代りとして講演された。いずれの話もやさしい先生のお人柄のにじみ出た含蓄の深いものばかりであったが、その中の一編「はるおのもみじ」は、先生が子供の頃、

ふと心を引かれて一生懸命になつてひき抜いて家に持ち帰った紅葉を、ご本人が忘れてしまつていて聞も先生の二親が、先生にとつてはかけがえのない大切なものとして丹誠込めて育ててこられたという思い出話であり、「人の心が大切にしているものを大切にすること」がこのようにして温かい心と心のかかり合いの中で代々受け継がれて来ていることを知る時、直接先生の薫陶を受けた我々にとつては、特に感銘深いものがあった。

小泉先生はフィンランドの古典「カレワ・ラ」を日本語に翻訳され、その功績によりめでたくも同国の文化財団と文相から表彰を受けられたとのことである。先生の講演はカレワ・ラの語義、フィンランドの風土、表彰式の模様、フィンランド語と日本語の共通性の有無、両国の神話の中の宇宙卵、日本古語の研究に役立つなど、なぞ集や宣教師の記録など、興味深い話題を豊富に盛り込んだもので昔なつかしい語り口で聴く者の耳をそらさぬ名講演であった。ちなみにカレワ・ラとはカレワの国と云う意味で、四万行ほどの古代詩を神話として筋書のおおるよう

にまとめたものだそうである。

フィンランドはヘルシンキのオリンピック以外我々にとつてあまりなじみの濃くない国であるが、最近では直行便も飛んでおり地図を見て想像するよりも実際はずっと近いそうである。またフィンランドのことをフィンランド・日本協会だけにまかしておくのでは心もとないと感じさせるようなハッピーニングもあったそうなので、これを契機として我々自身も少しは関心を持つように心掛けてはどうだろうか。今年の10月21日・22日には東京でカレワ・ラ祭が開かれるそうで、そのためには下度よい機会となりそうである。

なお先生の翻訳書は岩波書店から出版されているそうであるが、一度その一部なりとも読む機会を得たいものと考えている。

(矢部正和)

八〇回

盛大に二次会も

今回で第五回目となる第八〇期関東同期会を去る十月五日、内幸町にあります日本プレスセンタービル9F大会議室において開催しました。七月始めから準備し、出席予定三〇名のところ、当日近く

なって、急遽出張がはいり欠席者が八名でしたが、二二名の参加

があり、盛大に催されました。現在関東には八七名おりますが、毎回、初参加者が三、四名おり又、一、二回欠席された者も再び顔を

みせ、しばらく歓談するうちに、二、三年前の静高生に戻り当時の愛称で呼びあう雰囲気となりました。それでも名前のわからない

者もいる為、自己紹介となり、各人の近況も交えてのお話は、感心したり、からかわれたりで爆笑の場面もあり、大変なつかしい有意義な時間をすごすことができました。何といつても高校時代の友人

は、利害関係もなく童心にかえれる貴重な仲間です。来年に必らず再会することを誓って最後に、あのなつかしい校歌を歌いました。

肩を組みあい輪となって、大きな声で歌う友の顔は、同期会を開いてよかったな！来年も会おうぜと語っているようでした。二時間半の同期会は、またたくまに

すぎ、このまま別れるのは惜しいので帝国ホテルのスカイラウンジへと行き二次会とあいなった次第です。

同窓会に対する意見
同窓会は縁の集りです。従って先輩後輩に知る者がいないとなかなか出席しにくい。まして三百名

四百名集まっても知らない人ばかりという感じになります。高校時代に同一サークルに属しているとか、中学が同じであるとかがないと知ってるすべがない。

だからといって同窓会は必要な存在だと思ふので日頃の幹事の方々の御苦労は大変なものだと思います。本当にごくろうさまです。

この会を魅力あるものにするため次の提案をします。

一、当時の先生方を最低でも三〇人位出席してもらつてはどうか。先生は、何年かやつてゐるわけですから、タテの結びつきには非常に好都合です。

二、同一テーブルに各期にわたって配置し、自己紹介の時間を一時間位とつたらどうか。というのも

各期毎に、どうしても一団を作つてしまふのでタテの交流がないし又知らない人にあえて話しかけるのも憶効なものです。時間の都合

上、大変むづかしいとも思います。が、出席してみたら二、三人しか知ってる者がいないと、その者達とだけしか話さないで、周りの話しかだけが騒音となり、出て

つまらなかつたということになります。

(幹事 諸星勝保)

静岡だより

「花園」への夢かける

ラグビー部の近況

静岡ラグビー部は、昭和26年に県内の高校チームとして第二番目の創部になります。来年度は丁度35周年になります。創部当時の事情とか様子は現在記念誌発行を予定しておりますのでその機会にゆづることにしまして、最近の部の様子を紹介致します。現在部員数は女子マネージャー三名を含めて80名と、本校運動部の中で最多を誇っています。部員が多い事は誠に喜ばしいのですが、なにせ練習グラウンドが狭く、サッカー部と野球部の大小ボールの直撃を避けながら、巾20m、長さ50m足らずの中でできる最大限の練習を連日やっています。そんな中で、昭和57年、58年、59年と三年連続で県新人戦の優勝。58年春の県高校総体での優勝をとり、昭和35年以来23年振りの東海高校総体出場を果たしました。ラグビーの全国大会は御存知の通り正月に、大阪・花園で行なわれます。皆この大会を目指してしのぎを削りあっているわけですが、残念ながらまだ我が部員は三年生がこの大会まで残って頑張るところまでいきません。大

学受験体制で充分花園へのキップが手に入る可能性を持ちながら途中で部活動をやめざるを得ないのでしょうか。全国のいわゆる進学校といわれる高校チームで、全国大会に出場してくる学校もあります。なんとか一度花園へと思っているのですが……。簡単ではあります。現在のラグビー部の様子をお知らせしました。

ラグビー部顧問・甲木 怜
(甲木 怜)



静岡79期卒
東京教育大学・体育学部卒(42)
年、県立浜松工業高校県立島田工業高校を経て現在、静岡高校勤務5年目になります。保健・体育担当

(静岡新聞社・光木 徹記)

毎号光木氏等の「静岡だより」には、過ぎ去った静岡の思い出をかきたててくれるものがあり、関東同窓会会員一同感謝しております。

それにしても、前号でお願いした、静岡はいまどんなかと思いを馳せている会員のために、帰省された方より静岡の消息を聞かしてほしいとの願いに、今回は同期だよりの中の一、二を除いて少々かつたことはいかにも淋しい。次回はどんな小さなことでもニュースを寄せてお寄せ下さることをお願いします。

(編集部)

『街が燃える 人が燃える』 『静岡市空襲の記録』

B判変型大判上製本

定価二二〇〇円

40年前の6月19日の大空襲——市民が描いた、なまなましい体験画と手記を集めた記録。平和への願いをこめて一冊備えて下さい。

▼内容 △解説・静岡空襲△米國資料・写真・図版による静岡市空襲の全貌。△第一部・体験画集△空襲の記録画87点、全点カラー。△第二部・体験手記△体験者が綴るその日の恐怖の手記20編。

申込先：静岡市曲金5-15-38

静岡教育出版社「空襲画集」係

電〇五四二一八一—八八七〇

(編集部) 前号で54回磯野氏の著書を紹介したところ今号は60回の蒔田氏、67回の山川氏の著作が紹介された。大いに結構。

「二」え

会費納入の振替用紙通信欄でお便りを下さった方のかえをお知らせします。(60年9月現在)

38 大村 秀雄

鯨類研究所長としてまだ現役ですが、捕鯨そのものは残念ながら駄目となりそうです。

39 仲田 正午

いつもお世話になり有難うございます。六十年会費送ります。

先年静岡塩素を退職し、現在は高血圧後遺症の為家庭療養しています。

同窓会にも出席出来ず残念です。盛会を祈ります。

41 伊藤 顕信

弁護士登録以来、八重洲に事務所をもつてまいりましたが、今般左記のとおり事務所を移転しました。

東京都千代田区平河町一ノ六ノ一

一 エクシール平河町二〇四号室

伊藤敦原法律事務所

電〇三(二六) 六九八六(代)

42 菊地 謙雄

老骨、唯過去をふりかえり良き師、良き友に導かれた思出の毎日です。今日を感謝して生きております。陰棲の身、御無沙汰をお許し下さい。

43 山村 忠雄

年会費(昭60年度)をお届けいたします。何時もおそくなってすみません。今回から千円以上と云うことでしたが、二口位で一応の責任を果たすことにいたしました。悪しからずご了承下さい。

44 望月嘉太郎

四分の三世紀を生きて尚元氣。十二歳より始まった趣味のカメラワークも、既に還暦を過ぎ依然快調。稀少になりつつある明治生れに恥じないよう頑張っています。

44 長野寿一郎

老人会もゲートボールも他人事で日々是好日スケジュール満タン！皆様方の御健康心から御祈り申し上げます。

45 大石 清

いくつ年をとっても同窓会の便りはなつかしいものです。会報を読んだり名簿をめくって故郷静岡の少年の頃を思い出して暫らく時を忘れます。只年々同期生が少くなるのが惜しまれます。残る人生を楽しく元気に暮らしたいと思えます。

46 久留 武

一村産業も退職約五十年間のサラリーマン生活を終えました。伊東市の一碧湖畔のイトーピア別荘

47 山村 俊夫

病後療養中。海山河のふるさと静岡を想起し乍ら、句作に励むことが賦活剤でもある。

48 伊藤 重久

満七十才になったのを機に会社顧問も辞任し、自由な身となりました。これから好きなことをやって、毎日を楽しみたいと思っています。

49 安本 久

会社を退職し現在無職。

50 下山富太郎

六年前に会社をリタイヤ致しまして、只今、シャム猫改良に三十二匹と共に毎日を送っております。

51 森 弘

関東同窓会の益々の発展を祈ります。

51 渡辺 寛孝

会員名簿送付いただき有難うございました。本年で一〇一回の卒業期を算するに至り感銘を覚えまして共に、第五九回以前は学使出

51 渡辺 寛孝

51 渡辺 寛孝

51 渡辺 寛孝

51 渡辺 寛孝

51 渡辺 寛孝

51 渡辺 寛孝

51 渡辺 寛孝

陣と戦没病没で現生存者が少なく
なりましたことに一抹の寂寥を感
じます。特に丁度半ばの五〇〜五
一回期生以前の人数は一握りの僅
かです。

52 相島 秀夫
たいへんおくれてすみません。
これは前年度の会費です。

52 大草 知久
何時もお世話になります。年会
費をお送りします。よろしく御査
収下さい。

52 上林 明
関東同窓会会員名簿お送り頂き
有難うございました。
ダイセル化学工業に勤めており
ますが、出張が多く、同窓会にも
失礼しています。

皆様のご健勝をお祈りします。

52 新美 弘
このところ私用にまぎれて当地
区総会に失礼しております。各年
度の同期会の模様を会報により楽
しく拝見、時になつかしいお顔を
写真などで拝し嬉しく存じます。

今年も甲子園に母校の活躍がない
のが残念です。来年に期待したい
ものです。

52 小川善次郎
いつも幹事の方々に御尽力いた
だき感謝しております。関東支部
の名簿を拝見しますと、若い卒業

生の方々が年々増えてゆくよう
で心強く思っています。

53 野崎 昌輔
暑い中を大変御苦勞様です。大
分長らく御無沙汰して居りますが
一層の御繁栄を祈り居ります。

53 松前新太郎
暑中御見舞申しあげます。名簿
をいただきました。作製にあたっ
て、ご苦勞の多かったことでし
う。次の会合には参加します。

御健勝を祈ります。

54 大藤 直久
今年はお席できませんでしたが
会報なつかしく読ませていただき
ました。

暑さの折から御健勝祈ります。

55 戸塚 正五
お陰をもって相変らず元気で自
賠責保険関係の業務に従事して
おります。

55 山本 武
六〇年六月、勤務先の任期を終
えて退任致しました。二度目の定
年です。目下、身辺整理中。

55 中田 吉信
小生去る三月末で国立国会図書
館を退職しました。四月から岡山
市の就実女子大学史学科で教鞭を
とっております。

56 清水 逸郎
いつも会報をお送り下さり有難
い。

うございます。事務局の御努力に
感謝いたしております。

57 久保田誠三
八月、家族で墓参に帰省しまし
た。私の故郷由比町は蜜柑などの
産業が思わしくなく、何となく活
気がありません。このようなふる
さとに生きる人々と自分を比べ
また故郷の町の活性化の途を思っ
たりして、何かと考えさせられる
ことの多い帰省でした。

57 加藤 健三
総会はもとより同期会にもな
なか出席できなく申しわけなく存
じております。事務局の皆様御
尽力の手前この次こそと思いが
らいまだ果せないでおります。幸
い健康で勤務できる毎日感謝し
ております。同窓会の一層の発展
を念じております。

58 世古 真臣
今年の春42年振り、卒業以来始
めて静岡を訪ねました。町も学校
も変わって感慨一入でした。中学
も昔日の感はなく、唯、校庭が昔の
ままで、42年前をほうふつとさせ
今更ながらなつかしさがこみ上げ
ました。

58 加藤 恵一
我が同窓会のために御活躍いた
だいて感謝しています。

60 斎木 学
四年前から本社勤務となり新宿
におります。御連絡下さい。

61 赤羽 昭二
七月に飯田税務署長を最後に退
官し、税理士事務所を開設しまし
た。住所も変更になりましたので
よろしく願います。

送ってくれます。

58 田熊 博邦
すっかり御無沙汰しておりま
す。五八回はなかなか集りが悪く
申訳ありませんが、幹事候補不足
にて悩んでいます。小生も六十を
過ぎ趣味を大切にしながら過して
います。やっと公社を離れましたが
又お呼びにこられるのではないか
と思ひ、なかなか出席出来ず残念
至極です。

58 猪瀬 忠賀
自ら身を「予備役」に編入して
六年余り、幾多の曲折を経ました
が、編集者としての道も定まり、
還暦の体をいたわりながら仕事に
没頭しております。

59 加藤 恵一
関東同窓会の発展を心からお祈り
しつつ。

61 相馬 孝
二年前に松山から東京に帰って
います。

61 高村 岳史
小生三井鉱山を退職し現在自営
(税理士)中です。電話は自宅と
同じ〇三(四二)二九四五です。

61 赤羽 昭二
七月に飯田税務署長を最後に退
官し、税理士事務所を開設しまし
た。住所も変更になりましたので
よろしく願います。

『名簿』ご恵送頂きまして有難
うございます。

60 新間 昌輝
同期及び同窓会各位のご健康を
祈っています。朝陽・夕陽に映え
る富士、八面玲瓏の富士、折あら
ば又見たいものです。

60 柴田 正臣
毎度幹事の皆様にはお世話にな
りありがとうございます。猛暑の
折柄呉々もご自愛のうえ益々の御
活躍をお祈り申しあげます。

61 相馬 孝
小生、昨年NHKを定年で卒業
し、現在NHKコンピュター
サービスの社長をしています。会
社所在地渋谷区宇田川町四一ノ一
共同ビル内 電 四六二一五四〇〇

61 相馬 孝
二年前に松山から東京に帰って
います。

61 高村 岳史
小生三井鉱山を退職し現在自営
(税理士)中です。電話は自宅と
同じ〇三(四二)二九四五です。

61 赤羽 昭二
七月に飯田税務署長を最後に退
官し、税理士事務所を開設しまし
た。住所も変更になりましたので
よろしく願います。

60 益田 清聞

64 井戸 良輔

ごぶさた続きで申し訳ありません。又本会費の納入も遅れすみません。お届け済と存じますが、59年8月より勤務先が左記に変わりました。

菱和調温工業株式会社取締役

〒107東京都港区南青山二ノ三ノ六
電 〇三—四〇二—七三三—

(三菱重工、三菱銀行の系列会社です)

64 田中 耿

年会費が年一回払いだと払ったかどうか忘れがちです。五年分までとめて払うシステム(前払)はできないものでしょうか?

【事務局】前払の場合、何年度分と記入して頂ければ元帳に記入してそのように幹事の方にお知らせしています。

64・65 山本 和彦

いままでもうそろそろかいの会合にはご無沙汰しておりましたが、これから出来るだけ出席させていただきますように思っております。

66 安池 智策

私は昭和十九年四月静中に入学昭和二十三年三月四年修了しました。一年長谷校舎二年途中から住友校舎三年三菱校舎四年城内校舎と転々と変りました。住友校舎時代に人間天皇陛下をお迎えしたのが印象に残っています。旧プール

はいまも長谷で使われています。

66 山下 裕一

目下病氣療養中。

66 佐野 辰美

七月一日付で東京国税不服審判所審判官に転勤しました。

不正摘発の査察の仕事から納税者の権利救済の仕事へ急転した訳ですが、公平課税の理念は変わりません。

頑張りますので今後ともよろしくお願いいたします。

(電〇三—二一六—二五九—)

66 瀬尾 章

東京に住所変りましたが、それも世田谷から現住所となったため連絡先も関東支部へと思いつつ不明で漸くご連絡ができるようになりました。よろしくお願い申し上げます。

66 小林 成敏

大戦後四十年を振り返る時、日本の現在の繁栄は諸先輩の遺産であると同時に、それを守り育てて来た我々にありと自負してよいと思うが如何であろうか。昭和一桁のご同輩、今後ますますのご発展もさることながら、同時に切にご自愛あらんことを祈るものです。

67 稲葉 昌弘

当地に移住はじめての総会は仕事のついでで欠席で残念でしたが

クラス会には楽しく参加できました。今後ともよろしく願ひします。

70 滝口 登

昭和の還暦を記念して東京は八王子に新居を求めました。よろしく。会社生活二五年で一〇回の転勤と住居を変えようやく永住の地を……感無量

70 大長 智

58・59年度会費として59・4・19日に四〇〇〇円送付致しましたが、再度59年度分の督促を受けましたし、会報にも氏名がありませんでした。間違えなら良いのですが、念のため。

事務局もお忙しい事でしょうが、会の発展のためよろしく願ひ致します。

(編集部)元帳に確かに記載されております印刷誤りのあったことをお詫びいたします。

70 森野寿美子

いつもお世話になり感謝しています。今年は是非出席したいと思っています。今年には五十才。更年期も峠を越え少々寂しい心境です。

70 佐々木政之

四月五日に仕事で静岡へ行き少し振りに城内の桜を見て懐かしかったです。昨年住居表示が変りました。よろしく。

72 山田 勝

勤務先は板橋区蓮沼町一九ノ五太陽神戸銀行志村支店(九六〇)四二〇一です。来年の会には出席したいと思っていますのでよろしく願ひ致します。

74 木下 俊郎

関東同窓会初めて知りました。盛会ぶりに驚いています。来年当り都合がつけば出席したいと思っています。会運営は大変ご苦労が多いと思いますが頑張ってください。

74 角谷 治子

長い間静高の同窓会の通知がありませんでした。卒業時終身会費の積りでしたし住所もずっと高校時代のまま実家が同じ所にあつて連絡したばかりのものと思っていました。たまたま同じ会社の後輩が教えてくれて一昨年から復活しました。今後ともよろしく。

74 藤原 経史

住所、電話番号が変わっております。表記通りです。

74 大嶽 隆司

会社においても後輩が多くなり年の差も感じます。部長職と云うことで、会社の後輩の指導等毎日忙がしく頑張っております。

早速に名簿を有難うございまして。七四期は集まりが良くないよう

うです。今後は多数参加すべく努力します。

77 宇野 明彦

会員名簿の中に同姓4名。しかも同姓同名3名。同姓同名率7割5分。驚きと同時に非常に不思議な気分です! 住所変更しました。

84 岩崎 卓二

岩崎は転勤で六月にブラジルのサンパウロへ行きました。しばらく帰れないと思います。留守中は私が代理をしていますので宜しくお願い致します。

東京板橋区成増三—四七—六飯田利内 電話(930)六〇〇三

89 山崎真紀子

同窓会運営ご苦労さまです。先の大会の際は手元に通知届くのがおそく出席きずに残念でした。次回を楽しみにしています。

※、尚勤務先が変更しました。

朝I M P 港区西麻布一—一五オリエンタルビル8F

電話(〇三)四七八—三六四—

94 柏 寿子

同窓会名簿をお送り下さいましてありがとうございます。この三月に学習院大・大学院を卒業し現在東京外国語大学語学研究所につとめております。今後ともどうぞよろしく願ひ申し上げます。



出直し「江の島会」

基礎いよいよ固し！

毎年九月の第一日曜—今年は一
日に江の島総会が盛大に開催さ
れた、近來表面的には会員数も急
速に脹れ上がり、形式總會の色合
も濃くなると共に会計面でもモタ
モタして来たので、既報の通り出
発点に立ち帰り先ず同窓の懇親を
重ねつつ併せて母校並びに同窓会
の発展に寄与しよう—つまり換
言すれば、たとえ少数であっても
心から四十年近く続いている江の
島会の性格や特色を理解と愛情を
もって育て上げようとして下さる
岳南健児の固い結合体として再出
発に踏み切ったのであるが、謙虚
な気持と祈るような希望を交じえ
た懸念としては、これが「江の島
会」の真価を問う最初にして最後
の悲壮な舞台だと観念の臍を固め
ていた所、いざ蓋を開けて見ると
案ずるより生むが易しで「江の島
会」の基礎いよいよ固し—の実態
を確認すると共に参会者並びに通

信を与えられた百余名の諸兄に心
から感激と感謝の至情を捧げる次
第である。

この日同窓会本部からは安池得
之副会長（67期）が鈴木茂樹事務
局長（60期）とご一緒に—実は鈴
木与平会長が今回出席される旨い
ち早くご返事があつたので喜んで
居た所残念ながら急用で……）又
母校からは鈴木清見校長が新学期
早々校務ご多端の中を直に、関東
同窓会からは奥野孝副会長（53）
が—（宮沢次郎会長は避けられな
い社用の為欠席のご返事と同会の
ご祝儀の外にポケットマネーから
多額のご芳志を下さった、これは
二年後の四十周年記念行事の為の
基金に繰入れさせていたたくこと
にした）次に今回特に遠山忠雄富
士支部長（42）が、地元としては
第二代江の島名誉会長永野清氏
（35）が夫々米賓としてお祝いと
激励の言葉を賜わりかつ多額のご

祝儀を下さった。

遠來の友としてはおなじみの宮
崎忠輝氏（42）がある。お氣持が無
くしてはわざわざ浜松から労をい
とわず来られるものではない。平
谷真次氏（66）と勝呂清氏（59）は静
岡及び富士から馳せ参じて下さっ
た。28期の大石鶴一郎大先輩は向



こう十年間は何を措いても出席す
ると明言され今回もいの一席に出
席のご返事をいただいたのである
が、当日お仕事都合で台湾へ行
かねばならなくなったというので
皆さんにくれぐれもよろしくとの
事であった。ついでながら稲垣直
文氏（33）、小山亮清氏（33）、大井

辰男氏（37）、石割正氏（38）、和田
連二氏（39）からも次回には是非の
お言葉を寄せられた。37期の平尾
鋼之輔氏と40期の野崎操氏は元氣
一杯の姿を見せられたが、40期以
上の大先輩が多勢出席されたり、
常に激励して下さるのは他に見ら
れない本会の特色と誇りの一つと
有難く思っている。以下続けて当
日の出席者を紹介する（敬称略）
と井出多米夫・村松直（42）今井
志郎・西沢純三（43）佐伯正剛（51）
月見里得知郎（53）岩井平一郎・
長田栄（57）内田武男・佐野英一
・奥沢徹（59）伊東守（62・63）
田中俊夫（66）成岡英彦（67）北
村公一（68）神谷貞子・松島玲子
（69）影山昇・吉田修（70）後藤
弘枝（71）滝井弘子（78）近藤猛
（84）の岳南健男女児である。

話は少し逆戻りするが、折しも
この日は防災の日である。遠くは
関東大震災で物故された大先輩、
近くには江の島会の存続と発展の
為に声を大にして声援を送られた
柳川太郎氏（42）や相島一夫氏（49）
渡辺清夫氏（60）若山光子氏（68）
の霊に黙禱を捧げご冥福を祈って
から、普通なら米賓祝辞とか議事
に入るのであるが、親睦を重視す
るわが江の島会は例によって先ず
お互に打ち解け親近感を抱いた和

やかな雰囲気の下に明かるく楽し
い会にする為に來賓及び参加者の
紹介を要領よくしてから祝辞、報
告議事に移った司会進行は奥沢氏
事業並びに会計報告は副会長の月
見里氏、監査報告は監事の井出多
米夫氏であつたが同窓会や母校の
近況報告等には一同懐かしさや強い
関心と期待をもつて聞き入った。
そして静中・静高卒業生としての
矜持と先輩としての生き様に覚悟
を新たにした次第である。

懇親会場では先ず記念撮影とそ
のままの形で校歌を（これも本会
では全員の前で）今井氏の熱のこ
もった絶妙の指揮の下に高らかに
合唱後平尾氏音頭による乾杯の後
時の過つのも忘れる様な楽しい宴
会に入つた。例によつて有志の歌
やせりふや鴨緑江節の珍戯に興じ
た後は型の如く弁天橋の屋台「い
そみ」に於ける二次会の快（怪に
非ず）気炎となり奥沢・成岡両氏の
肝煎りの舞台となつたのである。
来年の総会は九月七日、再来年
の四十周年記念総会は九月六日、
共に朝日新聞のマリオンに掲載す
るので万一通知漏れの失礼が有つ
ても是非是非ご参加賜りたい。
（村松記）

謎解きの随想

40 回野崎操一氏著書「心の軌跡」から

月見里得知郎

ナイヤガラとの和訳

ナイヤガラは誰でも行くので、普通に歩いたのでは面白くない。そこで、まず滝の上のゴート島へ渡った。一面の急流である。水が澄んでいるので川底まで見える。深さは一メートル以上はあるだろう。狭い棧橋を渡るたびに、踏み外して落ちたら絶対に助かりっこない。島に乗り移り縁に立つて流れを見つめていると、水が動かずに島の方が走っているような錯覚を起して、クラクラと吸い込まれそうになる。また島が激流に押し流され、崩れ落ちはしないかと恐怖に襲われる。

長居は無用と岸に戻って観光用の地下道を歩いていたら、壁に緑色のスチールドアがあつてオフリミットと書いてある。そうなると思ふたくなるもの。ドアを押すと開いたが、薄暗いコンクリートの通路があるだけで、電灯以外には何も無い。人が擦れ違えるぐらいの幅で、手を伸ばすと天井に届き、

やや下り勾配になっている。三、四十メートル行くと、左に直角に

曲り二十メートルほど行くと、またスチールドアにぶつかった。無理に引くと開いて、霧と轟音が一べんに飛び込んで来た。滝の横っ腹に出たのである。二月の初めだったから、水と薄緑色の世界が無限に拡がっている。床が凍っていたら滑って、底知れぬ滝壺に真つ逆さまである。急いでドアを閉めて戻って来てしまった。

目の前で見えたナイヤガラは壮大の一語に尽きるが、むしろ下流の急湍と、ホワールブルーに度肝を抜かれる。川の直角に曲る所は直径百メートル、断崖の深さ百メートルの桶状の底に大渦を巻いている。ロープウェイが懸っているが、大涌谷よりスリル満点。金を払ってわざわざ命を縮めるには及ばない。もっと下流へ行くと流れは緩くなり、発電所のベンスストックが並んでいたとして、つまらない風景になってしまふ。

街へ出てひやかして行くと、西

暦何年何月何日に何某が、それに潜り込んで滝を飛び下りたという大型ビア樽が置いてあり、滝の解説書も売っている。それによるとナイヤガラとは英語ではなくて、インディアン語で「洪水の巨大な怒鳴る人」の意味だと言っている。

何だ。それでは日本語の方が意味が通ずるではないかと思つた。ナは日本語では波・灘・渚・流・涙・風・余波など水の関連語の頭字である。イヤは弥栄・弥増・弥が上など味盛の意である。ガラは相場の暴落、同系のゴロは紛れもないゴロゴロさんで雷。つまり大雷神で立派に日本語に通ずる。日本の神話式に名づけられ、イザナ・ミ・イヤサカノ・ガラノミコトというところである。

日本の滝に華厳・不動を始め、いかにも偉大な名称がつけられているが、そういう習性を持っているだろう。英語では意味のない滝の名が、日本語なら通ずることは軽視できない。日本民族ももとはモンゴル系といわれているし、インディアンもモンゴル系と考えられている。言語も血と同じように何万年経っても変わらずに伝わるものである。

古墳の形態

庭の片隅の木蔭に丸い盛土がある。幼児の作った金魚のお墓である。子供は考古学も古墳の歴史も知らない。この小型の円墳はどこにもあつて珍しいものではないが、軽がるしく見過ごす訳には行かない。このような仕業はおそらく古墳時代以前から連綿と続いていたのではないだろうか。

斎藤忠著「日本古墳の研究」によれば、古墳の定義として、古代社会において遺骸を葬るために営まれた高塚、という見解をとられている。だから金魚のお墓は古墳とは言えないが、小墳と言つてもいいかも知れない。子供にとつては、金魚は赤いべべ着た一人の遊び友達だった。可哀そうだから静かに眠るようにと願つてのことだろう。今の子供の持つているのと同じ純真な心で、古代人は古墳を築いたに違いない。

私が京都府久世郡久津川村に住んでいた頃、名もない古墳と覚しい小山が周辺にむくむくと点在していた。歴史的には何ら価値もない円墳も子供達の手頃な遊び場であり、稍大きいのは初日の出を拝みに登ったり、生駒山系の落日を眺める絶好の小山が、ごく身近な所にあつた。大きいのは山は盗掘された跡もあるので、豪族の古

墳だったのだろう。

仁徳天皇御陵が日本一大きいと言われているので一周して見た。普通に歩いて五十分かかった。三重に遡る廻らした墳墓の森は原始林のようで、樹も草も鬱蒼と生い繁り、怪鳥の鳴く声のみが木霊していた。立入禁止の御陵も金魚のお墓も、死者を葬う心は古代人も今の子供も相通するものがあり、時代が如何に近代化されようとも人の心には変りはないようである。この壮大な前方後円墳のボリュームはどのくらいあるか。古墳の体積を計算して見ると、エジプトにある一番大きいピラミッドを一〇〇として、七五に相当する。

徳川時代には蒲生君平（一七六八—一八一三）のように足で歩いて御陵を踏査した人もいれば、ゴイランドのようにイギリス人でありながら日本の古墳を調査した人もいた。現在は古墳の形を研究するのに、文献によるほか、図式によつて各部のプロポーションを探求するもの、コンピュータを用いて計算するもの、航空写真によつて鳥瞰的に全容を探るなど、科学的な研究が進んでいる。

初めは簡単な円墳から、高度に技術的に発達した前方後円墳や前方後方墳に変貌して来たのである

が、どんな心を持って、あのよう
な独特な形を作り出したのであ
うか。

古墳の形態は、古墳研究の中で
重要なテーマの一つである。古墳
の形態は大別して、単純な円形、
方形、方円二つの形態の組み合
せた前方後方形、前方後円形の四
種類に分けられている。この他に
柄鏡形や墳墓形もあるが、特殊の
ものである。

さて、古墳特有の複合形の前方
後方墳と前方後円墳の形は、一体
何を象徴的に表現したものだろう
か。古来、前方後円墳については
学者研究者によっていろいろ唱え
られているが、それらの諸説は見
方に従って、象形的、形状的、用
途上、築造上、模倣、図式的の説
に分類される。それらを整理する
と、次のようになる。

一、象形的に見る説には、

浦生君平の宮車説

浜田耕作の楯説

原田淑人の家屋説

島田貞彦・網干善教・上

田宏範の広口埴説

二、形状的に見る説には、

ゴランの円墳方墳三

角結合説

梅原未治の円墳方墳結合

説

三、用途上より見る説には

喜田貞吉の前方部宣命場

説・参道拝所説

高橋健自の前方部玄閣説

梅原未治の前方部祭壇付

加説

四、築造上より見る説には、

清野謙次の主墳陪塚連続

説

浜田耕作の丘尾切断説

末永雅雄の丘阜連続説

五、模倣と見る説には、

後藤守一の中国墳墓模倣

祭壇説

森本六爾の大陸墳墓模倣

説

六、図式的に見る説には、

上田宏範の後円径を六单

位とする説

梶国男の全長を八単位と

する説

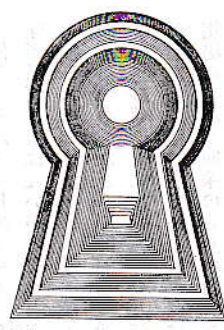
以上のように区分することができ
る。

ここでは象形的に見ることとし
て、複合形の古墳の形態は決して
無意味な形ではなく、死者の埋葬
と深い関連のある品物で、特に被
葬者の生前愛用したもの、美しい
もの、鎮魂葬に適用するものの形と
推定したのである。

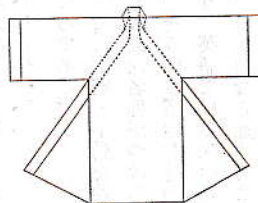
前方後方形は、衣服の袖と裾の
組み合わせた形に似ている点か



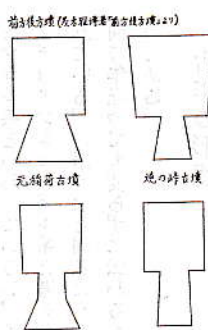
鏡立



穴神鏡 (上田宏範著「前方後円墳」, 共神文庫、地蔵堂刊)



上衣 (松本和塔著「前方後円墳」, 共神文庫、地蔵堂刊)



車塚古墳 (松本和塔著「前方後円墳」, 共神文庫、地蔵堂刊)

ら推定して、古代貴人の上衣では
ないかと思う。元種荷古墳・車塚
古墳・焼の峠古墳・松本一号墳な
どの平面図と、高松塚古墳壁画に
画かれている男子の上衣を展開し
た形との類似性を確かめるために
両者の比較を画いてみたのである
が、棺に被せた上衣の外にこのよ
うな形態のものがあるだろうか。
前方後円形については、副葬品
の鏡・玉・剣・土器などの中で、
鏡が最も貴重な品であること、前
方後円墳に副葬された鏡は前方後
方墳の場合より多数出土している
ことから見て、後円部は円鏡、前
方部は鏡の台で、つまり前方後円
形は鏡と台の組み合わせた鏡立
ではないか。試みに前方後円墳の
応神陵に準拠して古鏡の鏡立を作
り、両者を比較したところ余り不
自然さを感じないのである。
なお上衣と鏡立との二種類の形
態を使用するに当っては、被葬者
の氏族や身分によって厳格に区別
された墳墓の設計基準の法的規制
があったものと考えられる。
終りに、古墳の種類の呼称につ
いて、前方後方墳と前方後円墳の
後部は、それぞれ方形であり円形
であるから、そのまま後方・後円
で形の通りであるから差支えない
が、前部はほとんど方形ではなく

て台形である。従って形態を表現
する名称であるならば、前台中方
墳・前台中方墳と言わなくては正
確ではない。
前方後円形の語は、浦生君平の
『山陵志』に見えて以来、現在に
至るまで踏襲され、呼びならわさ
れてきている上に語呂もよいが、
古墳の形態を忠実に言い表わそう
とするならば、前方を前台中と改称
した方がよいと提言しておく。
五四回
編集を手伝っていると、のせる
記事も、つい他期を優先させ、自
分の期は余った紙面にうめ草の形
で入れるようになってしまふ。54
期にはすまないと思うのだが仕方
がない。誰かひとつ54期此処に在
りと、何か書いて下さらんか。大
々的に報道しますよ。
五四回の各期だよりで、前回磯
野君の著作を紹介した時、うっか
り末尾に小生の名前を入れるのを
忘れ、誰が書いたか分らず失礼し
ました。
今年の関東同窓会の総会では安
東、大畑、佐野、澤井の四君と小
生の五人だけであったが、澤井君
とは何十年ぶりかで、懐しさも一
入でして。
(庵原佛次)

六〇年度会費拠出者

(順不同・敬称略)

期別

二九

三〇

三一

三二

三三

三四

三五

三八

三九

四〇

四一

四二

四三

四四

四五

四六

四七

四八

四九

五〇

五一

五二

五三

五四

五五

五六

五七

五八

五九

六〇

須山達夫(5)、石上稔、大石清、竹下定吉、千葉保次

正之、渡辺寛孝、広瀬毅、佐藤昌武、直原澄衛、茂呂茂樹、大草知久、綾部立一、川島喜八郎(5)、曾根信一、鈴木三男、遠藤廉、小川善次郎、弓削恒、岩本良雄、新美弘、服部雅雄、勝又良男、田中貞司、上林明松永圭司

青木良文、奥野進、佐野豊彦、清水逸郎、原田昇左右、石塚由雄、山田隆、萩原達雄、橋本保二、鈴木源一、大野日佐太

三、山本雅之助、笠間達男、新聞昌輝、大石隆一、齊木学、堤崇、小林金次、原善三郎、時田正康、鈴木光男、石関忠雄、益田清間

鈴木銳見、神谷啓作、鈴木栄一、塚田英夫、岡本敏興、幡野儀作、畔柳安雄、永野清、福田功、石割正、大村秀雄、永嶺忠雄

今関智吉、片山正二、龜山敏男、杉山栄一、中村豊夫、星野三郎、山上信重、大村三郎、山村俊夫、土井知恵雄、高山貞男、後藤卓郎、野口真、関口不二夫、佐津川太郎、吉見四郎、田中達夫

奥野広、林慎、望月恵一、島村悟、田熊博邦、須山静夫、萩原義臣、佐野正夫、猪瀬忠實、宮崎佐一郎、藤森立一、世古真臣、原田和彦、加藤久、海野進(5) 藤田登

六二、六三、大塩幸男、大石一輔、伊東守、鈴木雄次

増井四郎、仲田正午、野崎操一、杉本四朗、増田完五、伴野三千良、北川二郎、中村安時、朝比奈一男、井出多米夫、岩波信平(5)、田中治、村松直、井上寿徳、内田正大、坂野隆介、松永孝、菊地謙雄、国分友美

伊藤重久、加藤博、近藤希賢、原崎進一、福永正美、伏見賢治郎、日比野悦三、黒水高典、大橋広世、興津幸四郎、青木香、鍋田親一、富谷精一

六四、六五、岩本吉雄(3)、名波倉四郎(5)、野沢正憲(3)、栗田行雄、渡辺宏一、山本和彦、益頭尚文、松下一男、蛭川博之、長谷川直和、望月坦、原田美津男、竹内豊、田中耿、井戸良輔

六六、石川創二、河守輝雄、小林五郎、田中俊男(3)、原野谷朋司、武藤勇、山下智康、北村友孝、三原載尾入泰彦、中村伸吾、村越立彦、菊田聡裕、加藤昭、安池智策、大村敏夫、原常勝、山梨裕司、大坪信之、小林成敏、山下裕一、佐野辰美内田幸雄、馬淵逸明、西田尚

今井志郎、芹沢正憲、西沢純三、小河直人、田崎茂夫、井沢源治、望月孟夫、坪晴行、山村忠雄、倉沢栄吉、三好由三郎、柳沢保雄

伊藤徹次郎、上杉一郎、小林道雄、菅沼栄、曾根重四郎、石割敏夫、山村忠平、安本久、嶋三四郎、伴野徳三郎、直原敏衛

五九、青山勇、奥沢徹、狩野和男、瀬端一男(6061)、福知疆小花敏郎、三輪潔、寺尾宏一郎、内田武二、伊藤光雄、川田昭、清水汪、青木静夫、加藤恵一、酒井哲夫、長谷川邦三、菅原操、原淳、湯本幸九、佐野英一、勝呂清、鈴木昭雄、小沢将男、田沢義彦、大塚恒

六〇、上杉重吉(3)、柴田正臣、高田隆祐、山崎鏡次、逸見昭

白井茂、長田寿雄、佐藤文三、高橋真一、村井東助(3)、増井三郎、小沼武、望月嘉太郎、中村満夫、長野寿一郎、森川恭

緑川俊徳、梅村魁、益田竜也、一一彦、永田徹、山田喜志夫、山本浩

五五、相川富士雄(3)、高橋恒三(3)、武井富夫、中田千束、中田吉信、長沢栄一、法月重雄、木村康弘、鷲巢英策、吉川曾介、飯塚一郎、松井保治、戸塚正五、野中篤成、瀬信男、山本武杉原俊一、相馬英夫、山下武男

六〇、上杉重吉(3)、柴田正臣、高田隆祐、山崎鏡次、逸見昭

大石清、草野哲、柏木千秋、佐野理平、鈴木弥門、田附敏三、堀正治、伊藤敬三、

河瀬士郎、森弘、樺田長、伊藤演吉、下山富太郎、蘆田

六〇、上杉重吉(3)、柴田正臣、高田隆祐、山崎鏡次、逸見昭

六〇、上杉重吉(3)、柴田正臣、高田隆祐、山崎鏡次、逸見昭

史、前田和彦、瀬尾章、佐藤六登志、藤原隆二、朝倉勇、大石脩而(3)、岡村英二郎、加藤友行、梶原由三(3)、小坂博(3)、児島英男(3)、鳥居滋夫、成岡英彦(3)、福原享一(6061)、松本安子、朝比奈正三(3)、田中映吾、渡辺真任、山岡進、小杉弘、影山友安、黒石聖一、中村次雄、稲葉昌弘、溝口淑郎(3)、杉山喜三

七二

男 佐藤利治(3)、松原徳満、後藤弘枝、曾根幸一、山田卓夫、小池啓治、加藤祐史、石川宏、相川東一、秋田和男、栗田甲子男、松隈道雄、岩崎矩夫、川上貢三、篠原直、鈴木功、大井康生、矢部正和、伊藤勝、梅原孝允、谷口滋、石上惟啓、三上裕一、中村治郎、渡辺弘

七五

俊郎、角谷治子、西山肇、藤原経史(3)、大嶽隆司、安達嗣雄、石丸信吾、酒井孝太郎、宮城島利一、望月鉄一、水上博之、深山源一、川島安祥、沢井安明、山崎通之助、森谷悦生、高橋昌子、宇野明彦、井上治、小林勝弘、石塚寿子、小田島鏡子、野中京子、大石恵則、大草康司、藤江通昌、諸星勝保、野崎幸彦(3)

九三

魚住一貴、望月朗、山路正史、橋島久美子、井林頼子、渡辺敦子、森下匡人、是永恵子、寺田深雪、松永啓、大木登志枝、柏寿子、杉山篤史、三輪誠、岩口康男、岩本義徳、鈴木智弘、寺本禎治

九四

221 横浜市神奈川区西寺尾4-29-1 大林組寮 (045-401-1801) ▲大林組横浜支店(045-201-4131)

九七

151 渋谷区代々木2-33-5 富士銀行参宮橋寮 ▲富士銀行新橋支店

九八

河村吉輝、鈴木統之、坪井泰憲、花村真一、松本有二、下山勇次、浜田祐輔、寺尾淳、山内章裕

九九

天野嘉久、杉山功一、渥美隆宏、佐藤欣久、鈴木正人、望月慎介

六八

岩瀬順郊、立花雅一、星野敏郎、吉崎英輔、荒谷じつ子、安藤昌(3)、鈴木俊彦、河口浩、福地康二、塚本浩司、大川庄治、藤波真五、杉山忠男、白鳥健次、伊東良平、雨宮明生、秋山和也、杉山和子、植田勇夫、渡辺郁馬、森下健、福本準一郎、今井久、大橋勝弘、稲葉清、武光康之、酒井定子、佐野録郎、野中省三、横山富士夫、神谷貞子、松島玲子、堀場千賀重、松村明子

七二

桜井亮介、桜井正之、夏目雅之、武井正和、花田守弘、深田均、松木茂夫、山口公子、山田勝、石井漱一、藤野威男、大木通宏、加来義信、木村順策、宮沢勇、小林文矩、佐野令而、清水雅彦(4)、高須喜隆、種茂雅之、前田栄一、望月成能(5)、岩下方彦渡辺繁、黒岩嘉明、石井正明

八二

鈴木真男、吉田昌史、桜井恭助、鈴木潤、田中涉、石井雅行、塩谷立、村松哲太郎、山田孝夫、戸塚康男、司馬立、池野博、岩崎卓二、山下剛一、宮城準子、浦田欣也、小宮幸夫、藤山崇、成岡和美

一〇

谷沢善之、野崎俊也、福泉陽介、室田泰志、花崎誠、田中悦子、安部伸、小野浩美、加瀬沢正義、金原伸之、佐野弘幸、杉浦俊彦、鈴木篤、成沢敦貴、長谷川健、深沢敦、星野剛史、青山芳己、乾倫枝、植田裕子、小倉恭子、狩野孝子、小泉名都子、佐藤真紀、福地倫江、小川泰弘、飯野稔、天野哲、岩崎利宣、河口拓也、白井正博、小川敦子、尾上文世、小堀民和子、細沢真奈美、増田好美、松園紀子

九八

221 横浜市神奈川区西寺尾4-29-1 大林組寮 (045-401-1801) ▲大林組横浜支店(045-201-4131)

九七

151 渋谷区代々木2-33-5 富士銀行参宮橋寮 ▲富士銀行新橋支店

九八

305 茨城県新治郡桜村天久保3-6-7 タムラハイツ201 (0298-51-4926) ◆筑波大学

九九

天野 充

七〇

小林孝光、関哲男、中馬敏雄、藤巻貞夫、鈴木明次、田中元、佐々木政之、滝口登、大長智、野田卓男、影山昇、大村梯二郎、五条朝

七四

稲葉一、加藤恒行、高田典彦(4)、西村泰一、松下晴一、星野美恵子、内山明夫、田地川洋子、熊谷敦子、木下

九一

鈴木玲子、長浜万里子、杉山律、北原糸子、小原裕子、土屋佳子、萩原素美、光木瓦、清水篤、渡辺典彦、石橋文子

九二

昭和六十年十月三十一日現在

薬科 名雄 153 目黒区上目黒2-18-13 山中ビル4階

88回 飯塚啓和・塩沢潤・山崎隆由・山本睦実 転居先不明

89回 小出 倫正 250 小田原市飯泉30 (0465-48-3327)

▲(0465-48-3211)

高木宏明・高木正和・吉田寿昭・後藤裕江・長坂みどり・高木佐余子・小原ちづ子 転居先不明

山崎真紀子 156 世田谷区桜2-17-6アパートメント桜ヶ丘207▲IMP (03-478-3641)

昭和六十年十月三十一日現在

昭和六十年十月三十一日現在

名簿補遺訂正表 (60.4.—60.10.変更事項 各内期順不同)

35回

◎新加入

加藤 正二 168 杉並区高井戸1-7-7 スカイハイツ411号
[03-327-5534]

法月 勇朔 死去

41回

伊藤 顕信 ▲伊藤萩原法律事務所[03-261-6986~7]

42回

堀 夷 156 世田谷区船橋4-1-5 [03-483-2514]

▲防衛庁技術顧問 [03-411-0151]

内田 正夫 勤務先削除

柳川 太郎 死去

44回

森川 泰 359 所沢市下富1043-70 フラワービル21-3

46回

久留 武 414 伊東市イトーピア一碧別荘地236A

48回

黒水 高典 姓名の訂正

寺尾睦之助 242 神奈川県大和市中央林間4-7-12-503号
[0462-75-3996]

50回

江川 友治 177 練馬区上石神井2-31-38

51回

◎新加入

小河八十次 233 横浜市港南区丸山台3-20-12 [045-843-6526] ▲川崎駅前公証役場 [044-244-5205]

藤田修二郎 272 市川市東菅野1-25-21 [0473-34-8733]

遠田 毅 420 静岡市大岩本町2-10 [0542-47-0561]

大富部国男 158 世田谷区瀬田2-26-22

神谷 寿夫 死去

高橋 達郎 177 練馬区南大泉3-14-30

田中 賢一 勤務先削除

辻村 半造 203 郵便番号訂正

寺尾 利男 ▲佛長堀 [03-832-8267]

渡辺 功 158 世田谷区瀬田4-21-4 [03-700-2673]

渡辺 寛孝 276 八千代市宣田町613-15 [0474-82-8832]

53回

香林 竹男 223 横浜市港北区綱島西3-16-10

▲社団法人外航船員医療事業団常務理事

鈴木 弘雄 勤務先削除

55回

鷲巢 英策 姓名の訂正

58回

萩原 義臣 ▲医歯薬理専門予備校 野田クルゼ

[03-268-4567]

59回

朝倉 徳夫 転居先不明

伊藤 光雄 ▲佛東扇島物流センター [044-277-3761]

福地 温 [0492-32-5533] 自宅

60回

柴田 正臣 ▲佛NHKコンピューターサービス
[03-462-5400]

61回

相馬 孝 松山市の住所を削除

高村 岳史 ▲高村税理士事務所 [03-421-2945]

中尾 昭 102 千代田区三番町6番25号イトーピア

3番町404号 [03-262-1533]

若林 義男 転居先不明

赤羽 昭二 181 三鷹市中原2-19-39

▲経理士事務所【開設】

64・65回

井戸 良輔 ▲菱和調温工業佛 [03-402-7231]

長谷川直和 ▲NTT成田報話局国際空港施設課

66回

◎新加入

前田 和彦 232 横浜市南区永田北1-28-9

▲ポーラ化成工業佛ポーラ横浜研究所

瀬尾 章 118 三鷹市下連雀9-9-5-610

西田 尚史 177 練馬区富士見台2-40-3 (03-970-8857)

▲都立広尾病院 (03-444-1181)

藤原 隆二 215 川崎市麻生区王禅寺1341-88 (044-955-8939)

▲三井日石ポリマ (03-588-1770)

佐藤六登志 174 板橋区小豆沢3-9-2 小豆沢パークマン

ジョンファミリー B708 (03-968-7846)

▲三井石油化学 (03-581-0653)

石川 令二 247 横浜市戸塚区公田町1290-2

湘南桂台中11-13

佐野 辰美 ▲東京国税不服審判所 (03-216-2591)

67回

杉山 喜三 ▲佛フジミドレス (03-639-4290)

68回

安藤 昌 192-03 八王子市南大沢4-19-19-101

(0426-75-6316)

今井 久 姓名の訂正

野中 省三 228 相模原市上鶴間大3030-6 (0427-47-

0367) ▲大東運輸佛 (03-452-6275)

70回

中馬 敏雄 140 品川区八潮5-10-54-1014 (03-790-8448)

71回

滝 裏一郎 転居先不明

松隈 道雄 ▲佛東芝交通事業部 (03-457-4583)

渡辺 弘 250 小田原市扇町3丁目26-34

72回

◎新加入

福田 雅彦 233 横浜市港南区下永谷町2308 港南百合ヶ

丘ハイイツ棟202号 (045-823-3702)

遠藤 裕 転居先不明

黒岩 嘉章 372 群馬県伊勢崎市豊城町2255-9 (0270-

26-6462) ▲日本電子機器佛

山田 勝 ▲太陽神戸銀行志村支店 (03-960-4201)

73回

神原 由之 転居先不明

佐々木勝彦 244 横浜市戸塚区汲沢4-16-8

74回

岩崎匡利・興津隆之 転居先不明

藤原経史 223 横浜市港北区高田町252-25(045-593-3101)

吉沢 洋 233 横浜市港南区港南2-20-2

75回

榎本 裏・吉沢 駿 転居先不明

原野 雅也 136 江東区大島6-1-6-1219

77回

岡村 稔 334 川口市東本郷384-1

79回

上田 尚亮 176 練馬区光が丘7-7-6-405 (03-976-0625)

84回

近藤 猛 343-03 神奈川県愛甲郡愛川町中津3431-13

貞弘 文佳 転居先不明

三輪 誠 421-11 静岡県志太郡岡部町内谷60-2 ▲開業医

87回

飯村富美代・泉洋子・一志文子・石神葉子・大手わか・小

川みよ子・坪内和人・平岡孝・福島祐介・胸組光明・八木

宏樹・渡辺洋一 転居先不明

塩川 治郎 158 世田谷区東玉川2-34-13 セゾン玉川201

川口代志子 213 川崎市宮前区宮前平1-3-5-9-402

(旧姓仲野) (044-888-8411) ▲東京家裁八王子支部

(0426-42-5195)

凸版印刷株式会社

東京都台東区台東1-5-1

TEL (833) 2111 (大代表)

セリ企業グループ

代表者 芹澤正憲(43回)

㈱銀座瀬里(573)4031~3
㈱セリ・エンタープライズ(574)7295~6
㈱タカ・セリ(572)6881~2
㈱ニュー・セリ(571)4588・6255
㈱セリ・プレイング・マシン(462)38-0571(代)

株式会社 東電社

取締役社長 岩波信平(42回)

東京都中央区日本橋2-1-21

TEL (271) 2701 (大代表)

本田技研工業株式会社

川島喜八郎(52回)

東京都渋谷区神宮前6-27-8

TEL (499) 0111 (大代表)

川根銘茶

三保乃園山菅茶店

山菅章雄(53回)
(村松正七)

東京都港区南青山1-20-6

TEL 03-403-5760

日本レーベル印刷株式会社

代表取締役 岩井平一郎(57回)

本社 静岡市国吉田645

TEL 0542 (62) 1111 (代)

東京 中央区京橋1-2 越前屋ビル

TEL 03 (272) 4651 (代)

建築設計・監理

株式会社 奥野建築設計事務所

取締役会長 奥野孝(53回)

取締役社長 奥野進(56回)

取締役副社長 奥野広(58回)

本社 東京都台東区寿2-5-12 加瀬ビル

TEL 03-842-6831 (代表)

静岡事務所 静岡市安東2-8-14

TEL 0542-46-9378

建築コンサルタント・設計施行業務

建築に関する御相談は御気軽に……

株式会社 大雄

取締役社長 奥野孝(53回)

本社 東京都台東区東上野2-18-7 共同ビル10階

TEL 03-834-5331 (代表)

新東京印刷株式会社

代表取締役 梶原由三(67回)

東京都中央区八丁堀2-1-7

神鋼ビル

TEL 03-553-8981 (代表)

株式会社 アドプロ

代表取締役 朝比奈正三(67回)

東京都千代田区内神田3-4-5 岡崎ビル3階

TEL 03-254-2171 (代表)